

「北杜市」からの文書（平成26年6月9日）

参考資料1 パブリックコメントで寄せられた意見一覧

対応案の赤字記載箇所は、ビジョン修正対応③

自022-24

No.	内容	対応案
14	標題：北杜市まちづくりビジョンへのパブリックコメント 北杜市民にとって、そして利便性も向上せず、景観や環境を損ない、騒音や光害、動植物の生態系の分断破壊など、マイナス面の方が多く、市民の反対の声も多い、いわゆる「B案ルート」ありきの「まちづくりビジョン」の策定には反対です。国道141号の改修の方が、安く早く、環境への負荷も少なくて済みます。 少子高齢化で人口減少が進むことが現実な状況で、新たに2千億円もかけて高速道路を造るのは時代錯誤の愚行です。今、国や自治体やるべきことは、高度経済成長時代に建設されたインフラの早急な補修です。そのことは「笹子トンネル事故」などで明らかです。	頂いたご意見の主旨は『北杜市中部横断自動車道活用検討委員会』の所掌外のご意見です。 なお、頂いたご意見の中で、「景観や環境を損ない、騒音や光害、動植物の生態系の分断破壊」に関しましては、まちづくりビジョン(素案)P12環境・景観「基本方針：多様な自然・環境・景観とともに」に基づき、取り組んで参ります。 「国道141号の改修の方が、安く早く、環境への負荷も少なくて済みます。」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P15くらし「視点②：くらしやすさの向上」に基づき、取り組んで参ります。
15	北杜市中部横断自動車道とまちづくりビジョンについての意見(パブリックコメント) 「北杜市まちづくりビジョン(素案)」にある「中部横断自動車道の整備に伴う効果」とは、そもそも一体何なのでしょう。北杜市における「中部横断自動車道」はもともと小沢沢町付近から清里方面へ抜けるルート案が示されていましたが、強い地元の反対があって、長坂インターからの新ルート案が示されました。新しいルート案にはどれだけの賛成があったのでしょうか。旧ルートも新ルートもともにハヶ岳南麓で、素晴らしい景観と静謐な環境、多くの優良な農地があり、地元の住民と別荘地の住民が多く生活しています。このような農地や村落、別荘地を広範囲に破壊して行かざるを得ない高速道路に賛成する人がどれほどいるのでしょうか。旧ルートも新ルートも賛否に大きな差異があるとは思えません。多くの方の反対を押し切って造られたとしても、そこにどんな効果があるのでしょうか。中部横断道ありきのまちづくりには大きな違和感を覚えます。まちづくりにはもっと堅実なプランを基礎に置くべきではないでしょうか。 当地における中部横断道計画自体が小泉政権時において国の財政状況から不採算路線として建設中止が決定されたと聞いています。国の財政が一向に改善されていない中で建設計画の再浮上はアベノミクスがあると言ってもいかに危ういものであるか、考えないわけにはいきません。長期に渡って総額1000億から2000億もの巨額な費用の予算措置が継続されるものかどうか深刻な危惧を持たざるを得ません。大変なリスクが有るのではないのでしょうか。用地買収が済んだとしても、あるいは橋脚や土盛りが出来たとしても、いったん国の財政に新たな陰りが出た場合には即座に建設中止の対象になることが大いに考えられることです。何らかの建設物が残り、周囲は雑草が生い茂る荒廃した土地が広がるという最悪の事態が目に見えるようです。そんな所に住みたい人はいません。高度経済成長の時代は過去のものであり、あてにならない公共投資に頼ることなく、地域の総意に根ざした堅実な施策によって北杜市のまちづくりは行うべきではないでしょうか。 ハヶ岳南麓には多額の経費を投入して造られた優良な農地があり、そこからは地元の農家や新規就農者の汗の結晶とも言えるべき農産物が生み出されています。これをどんな効果があるかわからない計画で蹂躪することはあってはならないと考えます。 あえてここで私見を言わせていただければ、第一に観光や地域活動を中心に街づくりを考えるのであれば、北杜市にJRの駅が6つもある特徴を生かして鉄道の活用を目指すべきではないでしょうか。各駅、各地域とも独特の特徴を持っており、出来れば韮崎市から甲府へ至る歴史的にも魅力豊かなエリアとも連携、協力した活性化策が有効ではないでしょうか。また、コンクリート建築物によるのではなく、田園都市として緑と清流の地域、農産物豊かな地域を、また文化・芸術に秀でた多くの方々の活躍される特色ある地域を目指すべきではないでしょうか。当地も安曇野の清流(ワザビ田など)には負けているのではありませんか。東京をはじめとする大都市には、夢をもって生活しているものの何か満たされない想いを持っている人が大勢います。この想いの本当の受け皿は地方です。山梨県、特に北杜市は農業、観光、文化芸術の様々な分野で多くの人を受け入れることが出来る優れた地域になると考えられます。 上述しました通りこの道路計画には莫大な予算が想定されています。多くの借金をかかえる日本の財政状況を考えるとき、不要不急の高速道路を建設する必要性はまったく考えられません。当地の交通は在来の国道、県道を整備すれば十分であることは多くの方の一致した意見です。在来の道路を整備することによる地域の活性化こそ、真の発展につながるものと考えられます。この方がはるかに少ない経費で済み、さらに笹子トンネル事故を考えるとき、これから必要とされる既存道路や橋梁のメンテナンスとそのための人材の育成、確保にこそ予算をあてるべきと考えます。北杜市内でも多くの橋梁が点検されていないと聞きます。私が時々通る掘割式のJR路線の上を通る橋梁は錆びひどく雑草に囲まれておりいかにも何年も点検整備はされていないといった感じです。万一、落下事故でもあった場合には大惨事も考えられます。何を優先すべきか明白ではないでしょうか。	頂いたご意見の主旨は『北杜市中部横断自動車道活用検討委員会』の所掌外のご意見です。 なお、頂いたご意見の中で、「ハヶ岳南麓で、素晴らしい景観」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P13環境・景観「視点②：優れた山岳景観と農村景観の保全」に基づき、取り組んで参ります。 「静謐な環境」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P13環境・景観「視点③：良好な生活環境への配慮」の「良好な生活環境」に含まれるものとします。 「農地や村落、別荘地を広範囲に破壊」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P13環境・景観「視点③：良好な生活環境への配慮」に基づき、取り組んで参ります。 「多くの優良な農地があり」、「ハヶ岳南麓には多額の経費を投入して造られた優良な農地があり、そこからは地元の農家や新規就農者の汗の結晶とも言えるべき農産物が生み出されています。」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P16地域活性化「視点①：六次産業化・農業と観光の融合による地域活性化」に『優良農地』という文言を追記します。 「北杜市にJRの駅が6つもある特徴を生かして鉄道を利用した地域の活性化を目指すべきではないでしょうか。各駅、各地域とも独特の特徴を持っており、出来れば韮崎市から甲府へ至る歴史的にも魅力豊かなエリアとも連携、協力した活性化策が有効ではないでしょうか」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P15くらし「視点②：くらしやすさの向上」に基づき、取り組んで参ります。 「田園都市として緑と清流の地域」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P12環境・景観「基本方針：多様な自然・環境・景観とともに」に位置付けられています。 「農産物豊かな地域」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P16地域活性化「視点①：六次産業化・農業と観光の融合による地域活性化」に基づき、取り組んで参ります。 「文化・芸術に秀でた多くの方々の活躍される特色ある地域を目指すべきではないでしょうか」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P16地域活性化「基本方針：魅力あふれる元気なまちを目指して」に『文化・芸術』という文言を追記します。 「当地の交通は在来の国道、県道を整備すれば十分であること」に関しては、まちづくりビジョンP15くらし「視点②：くらしやすさの向上」に基づき、取り組んで参ります。 「在来の道路を整備することによる地域の活性化こそ、真の発展につながるものと考えられます」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P16地域活性化「基本方針：魅力あふれる元気なまちを目指して」に基づき、取り組んで参ります。

「北杜市」からの文書（平成26年6月9日）

参考資料1 パブリックコメントで寄せられた意見一覧

対応案の赤字記載箇所は、ビジョン修正対応案

自022-25

No.	内容	対応案
16	中部横断自動車道活用検討委員会御中 パブリックコメントとして提出いたします。中部横断自動車道(長坂～八千穂)について進言いたします。問題は世界的に見て借金大国(約1008兆円)である日本、アメリカを除いては世界でも吐出しています。対GDP比で考えるのであれば200%を超えている世界一の借金国です。(ギリシャは160%) この道路(長坂～八千穂)が国民、市民にとって本当に必要なかと言うことです。この借金の額からすれば、道路建設費は微々たるものですが、長坂～八千穂のルートは山岳高速道路となり、冬の管理費は普通の平地の道路より吐出して多くなることは事実で借金製造道路となります。なによりこの長坂～八千穂のルートは山梨県にメリットが無いことは国土交通省のパンフレットにメリットが書かれていないことから証明されています。 シンダリングの解消という国土交通省用語を振りかざし、甲府河川事務所の方は建設を推進していますが国民の生活を考えているのでしょうか？バブル時代に計画されたルートを忠実に遂行しているだけではないのか？人口は減少に転じ若者の車離れも進み、今や世界的に見ても老人人口が多い国となりました。計画されたバブルの時は時代が変わったのです。時代が変われば計画は見直すべきだと考えます。 この道路は東名と中央道をつなぐルートで建設するだけで中部横断自動車道としての建設メリットは達成していると思います。 国土交通省のパンフレットに書かれている清水港と新潟港をつなぐ「国際拠点港の連携」は静岡側のルートで90%以上達成されていると思います。長坂～八千穂のルートを新たに造って長野道を通って新潟港へ行くのと比べると14.7km近くなるだけです。 ●清水港～新潟港への、それぞれのルートの距離比較 1、長野道利用ルート 清水JCT～75km～双葉JCT～長野道ルート345km～新潟中央JCT＝走行距離約420km 2、中部横断自動車道(長坂～八千穂)建設し利用したルート 清水JCT～75km～双葉JCT～中部横断ルート330km～新潟中央JCT＝約405km 420km(長野道コース)～405km(長坂～八千穂コース)＝約15km(建設した場合の短縮距離) 中部横断自動車道(長坂～八千穂)が建設されても距離は約15kmしか短くなりません。 平たんな2車線の長野道、方や山岳高速1車線の中部横断自動車道(長坂～八千穂)この二つの道の交通の安全性とスムーズさを比較した場合、距離の短さが時間短縮につながるとは思えません。 ましてや冬場はプロのドライバーが雪の山岳高速道路を危険を冒し選ぶとは到底考えられないことです。この約15kmを短縮する為に1800億円と国費と県費を使うのは無駄すぎないと思います。 災害時の代替道路に関しても山梨側には高速道路の選定候補など(アンケート)に上がるほどの良い道路が何本も存在するので新たな道路は必要としないと思います。 *****などは市議会において、太平洋が見たい日本海が見たいと言うのが市民の願いであったと演説しますが、静岡側のルートさえ出来れば長坂～八千穂のルートを建設しなくても太平洋は近くなるのです。日本海は長坂～八千穂のルートを造っても時間的には近くはなりません。 このように基本的には中部横断自動車道(長坂～八千穂)ルートは必要性が認められない道路だと思えます。 北杜市は中部横断自動車道(長坂～八千穂)を命の道として推進し、これは災害復旧と緊急搬送の道という二つの側面からだと思いますが、長坂～八千穂のルートは縦に多くの道が存在します。災害復旧はこの道で機能しますし、消防署に救急車の搬送先を聞くと重症の場合は甲府の救命救急センターへ搬送とのこと。 もし北杜市が真に命を考えるのであれば、長坂接続ではなく須玉や双葉を考慮するべきだと思います。距離的には病院に搬送できる時間が5ほど短縮できます。脳細胞は心停止からわずか3分で死に始めます。5分は命を落とす時間にもなるのです。1分1秒でも重症患者を早く運べばより多く人の「命」を救えます。 今のBルート案は命に厳しいルートです。 国土交通省はなぜ長坂に決定した経緯を国民に明らかにせず、長坂接続を建設費用から最善だとしています。これは北杜市の基本的な考え「命の道」を考えれば数百億円増えただけで命を取るかと思えます。 長坂接続に関しては、長坂ICとハケ岳パーキングの間は2kmしかなく、現計画ではその間にジャンクションが造られ各施設の間隔が1km取れないこととなり危険です。複雑になりすぎ人間の判断ミス誘発します。スピードの速い高速道路上では、判断ミスによる急激な車線変更などは重大な交通事故を招きます。 道を接続するならば長坂ICより甲府側にジャンクションを造るべきです。 私はなぜか長坂にしなければならぬか、B案でなければならぬか、**、県議会や市の活用委員会など山梨の有力者の土地が関係していると考えています。別の接続点では土地を通過する可能性すらなくなるからです。 私がたびたびBルートの白紙撤回を求めている理由として民主主義の世の国民の平等と公平性が国の政策には必要だと考えるからです。 公人土地問題が発端しても道路建設を推進する方々が、臭い物に蓋をして案としてのBルートを推進することは、この国の公平性を阻害します。 第3回ワーキングの傍聴を私も九段でしたが、審議に土地の問題は提起されずシナリオ(国土交通省)通りに進み、お芝居を見ている様でした。	頂いたご意見の主旨は『北杜市中部横断自動車道活用検討委員会』の所掌外のご意見です。 なお、頂いたご意見の中で、「冬場はプロのドライバーが雪の山岳高速道路を危険を冒し選ぶとは到底考えられないことです」に関しては、冬期の走行安全性に関するご意見と捉えており、まちづくりビジョン(素案)P14くら「視点①:安全安心の確保に向けて」に基づき、取り組んで参るとともに、まちづくりビジョンを策定した後、ビジョンを達成するための道路プラン策定の際の参考意見とさせていただきます。 また「長坂接続に関しては、長坂ICとハケ岳パーキングの間は2kmしかなく、現計画ではその間にジャンクションが造られ各施設の間隔が1km取れないこととなり危険です。複雑になりすぎ人間の判断ミス誘発します。スピードの速い高速道路上では、判断ミスによる急激な車線変更などは重大な交通事故を招きます。」に関しても、まちづくりビジョン(素案)P14くら「視点①:安全・安心の確保に向けて」に基づき取り組んで参ります。 北杜市中部横断自動車道活用検討委員会は、「まちづくりビジョン」を審議することから、地域の代表者や市域の主要産業である観光、商工業及び農業などの分野から委員を構成しています。多様な立場から意見を賜り、委員による合議制により審議を行うこととなっています。 また、「まちづくりビジョン」は、委員のみの意見にとどまることなく、地域の皆様を対象に複数回にわたる意見の把握を行い、それらの意見を踏まえながら策定していくこととなります。 さらに、検討委員会は、「北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱」に基づき公開で審議されているところであり、検討委員会の開催や審議結果などの情報は北杜市ホームページに掲載し、透明性を確保しながら審議を行っています。 こうしたことから、「**、県議会や市の活用委員会など山梨の有力者の土地が関係していると考えています」、「公人土地問題が発端しても道路建設を推進する方々が、臭い物に蓋をして案としてのBルートを推進することは、この国の公平性を阻害します。」、「土地の問題」という意見について、検討委員会の目的達成に当たっては、問題がないと認識しているところです。

「北杜市」からの文書（平成26年6月9日）

参考資料1 パブリックコメントで寄せられた意見一覧

対応案の赤字記載箇所は、ビジョン修正対応案

自022-26

No.	内容	対応案
	・このB案ルートの選定には以下の悪意が存在します。 ①国土交通省、県、北杜市も中部横断自動車道(長坂～八千穂)の長坂接続を15年前に決めておきながら計画を北杜市民に進んで告知しなかった(反対運動を恐れて知らせなかったのか?) ②住民の意見を集めた第2回アンケート配布と集計、長坂～八千穂のアンケートなのに建設の進む長野側に配布をしている。(建設が進む地域では反対する理由が存在しない。佐久市は長坂～八千穂間ではない。) 回答用紙の誘導的作為(記述式回答欄と賛成意見としかならない設問)。 恣意的な集計と解釈。(北杜市での141号の改良意見を無視など) ③計画段階評価が地域と関わりが少ないワーキングメンバーにより審議され一般住民を無視して進められたこと。(A、Bルート案選定経緯は不明のまま) ④国土交通省に公人土地問題を伝えるも、第3回ワーキングの資料として載せる要請を受諾した後、法律用語を悪用して拒否する。(個人情報保護法の観点より資料として審議しないとする。) ⑤第3回ワーキングで使った資料-2-2の頂いた全ての意見(集計結果)の表は作為的で道路の反対意見を細分化し、あたかも建設賛成が多いように思わせる詐欺的で恣意的な集計である。 このことは建設に反対する人が多い現状を隠ぺいするものだと思います。 この様な悪意の中で第3回ワーキングがB案を望ましいルートだと結論を出したことは遺憾です。 公人の土地問題では国土交通省の官僚を含め関係者に内容証明を配達証明で送付して、Bルート案の白紙撤回を求め、問題ないとする場合は理由の説明を文書にて回答を求めましたが、期日を過ぎても未だ一通も回答がありません。この事実は土地問題が問題があるので答えられないのであり、理論的に問題が無ければ回答できるはずなのです。 北杜市民のため、活用検討委員会に提案いたします。****が自ら一人で提言し国土交通省が押し付けているBルート案の白紙撤回を目指すことを決議して、活用検討委員会委員の市民代表枠を行政の末端の区長でなく北杜市民より公募で選ぶべきです。 賛成派だけで会を運営するのではなく、反対をする会の人間も加えるべきです。よろしく願いいたします。	「賛成派だけで会を運営するのではなく、反対をする会の人間も加えるべきです」に関しては、まちづくりビジョンを策定した後、ビジョンを達成するための道路プランの策定においても、引き続き地域の皆様のご意見を伺いながら検討して参ります。
17	中部横断自動車道活用検討委員会御中 私が今回の建設計画を知り、****に面談を求め、お会いし話をする中で、計画は20年前からで15年前には長坂に中部横断道のジャンクションが出来ることは告示されているとの話を聞き愕然としました。*は私に「今更なに言っている勉強不足だ」と言いました。 私は愛知県から長坂に永住したのが8年前です。この時点ですでにジャンクションの計画は存在していたのです。私がこの土地を買い求めた理由は眺望も素晴らしいのですが、夫婦が老いた時でも病院やスーパーが自力で歩いて行ける場所と思い購入しました。購入前に市役所へ行きこの市に関する情報を集め、この場所に住む決断をし、ローンをして家を建てました。 もしも計画段階で、市役所に中部横断道の計画のパンフレットなり計画がうたわれていれば中央道をはさんで静岡側に購入するか北杜市には永住しなかったはずで、ジャンクションが出来ると分かっていて、そこに新築の家を建てる人はいないと思います。 私は*に言われてから市役所の受付に行き中部横断道に関する掲示はありますかと聞きましたが知らないとの回答でした。自分の目でも確認しましたが掲示はありませんでした。 私が言いたいことは、建設に対して北杜市にとって必要だと判断して建設誘致をするならば市民への広告を行うべきだし、移り住もうとする人たちへの礼儀だと思います。 多くの人たちが中部横断自動車道(長坂～八千穂)の計画を知らず長野側に土地を買い求め住み始めています。もし市役所に誇らしく中部横断道が造られる街として掲示がされていれば、苦しい生活を余儀なくされる人も少なかったと思います。 北杜市は情報を知らせる努力を怠り現在の反対運動を生んでいるのです。この責任は市が負うべきものと思います。 市は現在推進されているBルート案の白紙撤回を進言して市の道路計画を20年間凍結するべきです。それが情報を市政の怠慢で市民に知らせなかった責任のとり方だと思います。	頂いたご意見の主旨は『北杜市中部横断自動車道活用検討委員会』の所掌外のご意見です。 北杜市中部横断自動車道活用検討委員会は、「まちづくりビジョン」を審議することから、地域の代表者や地域の主要産業である観光、商業及び農業などの分野から委員を構成しています。多様な立場から意見を賜り、委員による合議制により審議を行うこととなっています。 また、「まちづくりビジョン」は、委員のみの意見にとどまることなく、地域の皆様に対象に複数回にわたる意見の把握を行い、それらの意見を踏まえながら策定していくこととなります。 さらに、検討委員会は、「北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱」に基づき公開で審議されているところであり、検討委員会の開催や審議結果などの情報は北杜市ホームページに掲載し、透明性を確保しながら審議を行っています。 こうしたことから、「市民への広告を行うべき」、「北杜市は情報を知らせる努力を怠り」、「情報を市政の怠慢で市民に知らせなかった」という意見について、検討委員会の目的達成に当たっては、問題がないと認識しているところです。

「北杜市」からの文書（平成26年6月9日）

参考資料1 パブリックコメントで寄せられた意見一覧

対応案の赤字記載箇所は、ビジョン修正対応案

自022-27

No.	内容	対応案
18	北杜市中部横断自動車道を見据えた北杜市まちづくりビジョン(素案)のパブリックコメント 上記ビジョンをホームページで拝見しました。以下意見を述べさせていただきます。 日本は、敗戦後の復興の過程で大きな過ちがあったと思います。それは、人間が生きていく基本である「自然の恵みを頂く」農業、林業、酪農、漁業などを大切にできなかったことです。それがこのビジョンにも反映しています。日本の、そして北杜市の将来を考えるなら、まず農業、その基礎となる土壌や作り手の確保をどう守るかが基本的なことだと思います。今稲作や野菜作りをしている高齢者が働けなくなったら、里山保全ゾーンや田園集落ゾーンはますます荒れていくでしょう。環境も景観も、人を含めた動植物が健やかに生存し続けられる事を基本に据えての事ではないでしょうか。それらの基盤がしっかりした所こそ、長期滞在したい癒しの地域になると思います。 14pに、「北杜市は、…交通安全の観点から危険な生活道路の散在、市民の足となる公共交通網が不足していると捉えています」と書かれています。北杜市は高齢者の事故が多いと警察から指摘されています。生活道路の整備、公共交通の整備で市民の安全・安心を保障することに財源を充てるべきで、中部横断自動車道が全て高速である必要はないと思います。国道141号線に必要な改良整備をして、そしてそこに繋がる生活道路も整備されて事故が少なく安全となれば、訪れる人も安心して移動できます。たとえ高速を使って短時間で来ることが出来ても、高速を降りたら事故が多い危険な地域というのでは、特に地域の事情を知らない観光客は不安になるでしょう。うわべだけの景観を主とした観光を謳歌する時代ではないと思います。 これからの人口減少を考えても、高速道路に莫大なお金を注いで孫子の世代に借金の付けを回すより、既存の道路の改良・改善でより少ない資金で安全安心のまちづくりを進める事を求めます。また、今後の人口減少予測、中部横断自動車道南麓ルートの利用者数予測、費用対効果を、過大予測ではなく科学的に納得できる形で示して下さい。よろしくお願い申し上げます。	頂いたご意見の主旨は『北杜市中部横断自動車道活用検討委員会』の所掌外のご意見です。 なお、頂いたご意見の中で「北杜市の将来を考えるなら、まず農業、その基礎となる土壌や作り手の確保をどう守るかが基本的なことだと思います。今稲作や野菜作りをしている高齢者が働けなくなったら、里山保全ゾーンや田園集落ゾーンはますます荒れていくでしょう。」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P16地域活性化「視点①:六次産業化・農業と観光の融合による地域活性化」に基づき、取り組んで参ります。 「環境も景観も、人を含めた動植物が健やかに生存し続けられる事を基本に据えての事ではないでしょうか。それらの基盤がしっかりした所こそ、長期滞在したい癒しの地域になると思います」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P12環境・景観「基本方針:多様な自然・環境・景観とともに」に基づき、取り組んで参ります。 「生活道路の整備、公共交通の整備で市民の安全・安心を保障すること」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P15くらし「視点②:くらしやすさの向上」に『安全性向上』という文言を追記します。 「国道141号線に必要な改良整備をして、そしてそこに繋がる生活道路も整備されて事故が少なく安全となれば、訪れる人も安心して移動できます。」「既存の道路の改良・改善でより少ない資金で安全安心のまちづくりを進める事を求めます」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P14くらし「視点②:くらしやすさの向上」に基づき、取り組んで参るとともに、まちづくりビジョンを策定した後、ビジョンを達成するための道路プラン策定の際、経済性にも配慮し、検討して参ります。
19	標題:パブコメ 中部横断自動車道活用検討委員会事務局御中 申すまでもなく、中部横断自動車道(長坂-八千穂)の整備は、国道141号の改修によって可能であることはすでに明らかとなっております。 またすでにご承知のとおり先の「明野処分場」問題を巡っては、「村は割れに割れ、親戚、親兄弟が憎み合うこともざらだった。」(2013/3/27「朝日」)という許しがたい状況をうみました。それは山梨県の「はじめに処分場ありき」の行政によってもたらされたものであることは今日明明白白なのです。 中部横断道路の整備に関しても、これまでの国交省や*****の住民を無視した独断的で一方向的な進め方、さらには上からの「住民決り集会」や「中部横断自動車道活用検討委員会」等のデッチアゲとアリバイ作り等容認しがたい数々の問題があります。そこに見られるのは道路づくりは国や行政が行うこと、問答無用に独断的に力カミが行うものであり、住民の関与することでないという、決して容認できない思い上がった姿勢です。 ご存じのとおり私たちは住民はこれまで繰り返し、ただひたすらに住民との話し合いや協議、そして住民参加型の道づくりをもとめてきましたが、北杜市や国交省はこれを無視し排除してきました。これまでのそのような姿勢こそが、この間地域住民の間にいたずらに不要な溝・わだかまりを作り上げたのみならず、新たに南麓に移住を願う人々にも様々な混乱をも生じさせてきました。その責任はきびしく問われなくてはなりません。 私は住民の一人として、「はじめに高速ありき」の姿勢とそこからくる住民不在で非民主主義的なこれまでのやり方を直ちに止め、北杜市・国交省が住民と一緒に道づくりを進めることを求めるものです。 南麓も例外なく急速に少子高齢化が進む今、子や孫に車の走らない道路や莫大な負債・借金を残すことは決してあってはなりません。残すべきは南麓の素晴らしい環境と強固な南麓の民主主義体制(市政、地域・環境)であり、そこで育まれた思いやりと心豊かな市政と住民そのものだと思います。それを根付かせれば必ず過疎化をはねのけ将来にわたって「地域の活性化」をすすめ、美しい南麓を押し上げるものと確信します。 私たちは今後も「高速つくらないR141の改良を」の立場を堅持しつつ、地域住民が立場を超えて団結を強め、南麓を守り発展させる運動を進める決意です。この方向にこそ未来はあると思います。 ここにあらためて八ヶ岳南麓を横断する高速道路の整備に反対し、国道141号の改修・整備を求めるものです。	頂いたご意見の主旨は『北杜市中部横断自動車道活用検討委員会』の所掌外のご意見です。 なお、頂いたご意見の中で「国道141号の改修」、「R141の改良を」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P15くらし「視点②:くらしやすさの向上」に基づき、取り組んで参ります。 「残すべきは南麓の素晴らしい環境」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P12環境・景観「基本方針:多様な自然・環境・景観とともに」に基づき、取り組んで参ります。
20	標題:中部横断自動車道活用検討委員会 パブリックコメント 道路河川課 標記の件名について一言意見を申し上げます。 まちづくりの全体コンセプトにある優れた環境の保全と集約型のまちづくりにある目標とする骨格構造の二番目に骨格軸の形成なる項目があります。その先頭に都市連携軸の項目には以下の文章があります。 引用開始:鉄道網及び中央自動車道、国道20号、国道141号を本市と他都市間を連携する都市連携軸と位置づけ、機能の一層の強化を図る。:引用終わり 全くこの文章の通りです。 本市の環境保全、財政を考える上と新規の高速道路は不要です。 国道141号の機能の一層の強化に我々の税金を使って下さい。	頂いたご意見の主旨は『北杜市中部横断自動車道活用検討委員会』の所掌外のご意見です。 なお、頂いたご意見の中で「国道141号の機能の一層の強化」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P15くらし「視点②:くらしやすさの向上」に基づき、取り組んで参ります。

「北杜市」からの文書（平成26年6月9日）

参考資料1 パブリックコメントで寄せられた意見一覧

対応案の赤字記載箇所は、ビジョン修正対応案

自022-28

No.	内容	対応案
	1.名称が「北杜市中部横断自動車道活用検討委員会」となっているように、中部横断道の活用を前提とした委員会として認識しているが、そもそもの中部横断道建設計画のアンケートでは、北杜市の課題を解決するために、どのルートが良いかを問うていた。アンケートの結果は、141号線改修が多数意見であった。 その結果を無視してB案を前提にしていたら、どのように横断道を活用しても課題が解決されない。100歩譲って、B案だけで課題が解決するのか？北杜市の抱える課題は、アンケートには載っていない課題も多くある。北杜市として、北杜市の抱える課題を明確にし、その課題の解決には、高速道路の建設は非も含めて議論すべきである。 アンケートの結果は141号線改修が多数意見であった。北杜市の課題が、141号線を、どのように改修すれば解決するのか？ その辺りから議論を深めても良いのではないかと。現状では高速道路建設反対である。 2.「北杜市まちづくりビジョン(素案)」で、別紙のように、まちづくり計画のイメージが決まっている。まだ中部横断道のルートも建設計画も決まっていらないに、それを前提にして、その計画を変更しようとしている。北杜市の住民の合意で決めた計画を、変更しようとしている。 本当に中部横断道が、北杜市にとって真に役に立つ道となるのか？ その議論から始めるのが市としての役割ではないのか。国が決めたからと言って、その通りに推進しようとする姿勢は無責任である。以下の点を、しっかりと詰めてから活用検討委員会を組織すべきだ。 1.新たな道の保守点検で財政的に可能か？ 2.そのとき、従来の道の保守も含め、保守人員、技術者の確保は出来るのか？ 3.八ヶ岳南麓に高速道路が出来て、人口減や観光に悪い影響がでないか？ 4.特Aランクの梨・北米の収穫量、ランクに悪い影響がでないか？(水量、水質、品質、耕作面積、就農者数など) 5.北杜市の財政資源を、何とするか？(観光・農業・自然の地形を活かした産業・企業誘致による都市化など) 6.その他 上記を、充分に検討し、その上で住民の意見を、ルートの決まった(実は決まっていらない)高速道路を前提にしないパブリックコメントで募るべきである。この意見も排除しないで、パブリックコメントの高速道路建設反対に分類して頂きたい。 3.***は、「丁寧なコミュニケーション」との指示があった。しかし、その後の新ルートの2案は、八ヶ岳南麓に通ずルートは、2案とも同じものであり、コミュニケーションの余地が無いものであった。そのような状況を***はご存知なのか？ ご存知なら、このようなルート案は、絶対に容認されないはずである。国交省は、***と「丁寧なコミュニケーション」が出来ているのか？ ***は、八ヶ岳南麓地域を風景街道に指定して人であるから、その地域の住民が反対していることを存じていたら、このルートは通さないと思っている。是非、***の言う「丁寧なコミュニケーション」を、活用検討委員会で行って頂きたい。特に前提としているB案の対象地域に住む住民の意見を、聞くべきである。残念ながら現状では高速道路建設反対である。 21 4.八ヶ岳南麓の地域は、日本でも有数の景勝地である。その環境は、地元住民が永年守り続けたおかげである。それを国が決めたからと言う理由で、横断道を建設することは、地元住民を蔑ろにするだけでなく、観光や二地域居住の政策に反し、北杜市の財産である八ヶ岳南麓の環境を破壊し観光都市となり得なくなる行為である。経済的にも決して北杜市の利益にはならない。 ここ数年で、多くの人が南麓に移住してきた。北杜市の人口推移を見れば明らかである。この人達は、様々な分野(アートクラフト、飲食店、農産物、食品製造など)で、地域の環境を活かしたモノ作りで店舗などを構え、近郊都市からの集客を実現し地域活性化に貢献している。この事実が、八ヶ岳南麓の環境が北杜市の財産であることを示している。それを壊すことは、北杜市の未来を壊すことである。従って、現状では高速道路建設反対である。 5.清里の近くに高速道路のインターチェンジ設置をとの声もあるが、インターチェンジが出来たら、それだけで賑わいが戻ることは無い。軽井沢の例を挙げると、中心地を遠く離れたところにインターチェンジがあるが、それで、賑わいが無くなることは無かった。むしろ、中心地に行くまでの道路沿線に活気が出てきたし、中心地も同じようににぎわっている状況である。注目すべきは、インターチェンジから中心地への道が活性化したことである。 また、清里にインターチェンジが出来たら、この地は、都心からの日帰りコース、軽井沢への通過コースになることは目に見えている。現に山梨市は、日帰り客が増えて、宿泊客者が困っている状況になっている。山梨市の二の舞になることは必然である。 このように清里の近くにインターチェンジが出来たら、観光客が増え、清里地区の宿泊業は衰退するであろう。更に、今は清里へは、長坂ICから県道28号線、須玉ICから国道141号線が主要な道となっているが、高速道路が出来たら、今でも少ない交通量の中で頑張って営業を続けている個性的な店が決定的なダメージを受けることになる。つまり、清里の一部の観光スポットが賑わうが、清里の宿泊業者、県道28号、国道141号沿いの店が衰退し、北杜市の観光産業に大きなダメージになる 八ヶ岳南麓に高速道路は要らない。現状で魅力ある施策が削られるか否かである。市政と住民との、密なコミュニケーションがあれば実現できる。現状では高速道路建設反対である。 6.八ヶ岳南麓には、四全総で長坂-八千穂が決まってから以降も移住してくる人が増えている。北杜市が年々人口を減らす中、主たる南麓の地域である大泉町、高根町、長坂町は、人口が横ばいもしくは増加の傾向にある。特に大泉町は、移住者が過半数を超えたに聞いている。 それら移住者が、北杜市に何を求めて移住したのか？ 移住者が北杜市の経済活動にどの程度寄与しているか？ しっかりとアンケートで意見を募り、施策に反映すれば、きっと良くなる。 私は、自然の中で、且つある程度の都会の利便性を享受できる、そのような終の棲家を求めて移住してきた。自然の中で、澄んだ空気がもたらす青空と夜の星がいっぱい見える星空、八ヶ岳の伏流水のおいしい水、北にくだらかに広がった八ヶ岳、西に甲斐駒・北岳などの雄大な南アルプス、南に世界遺産富士山など、日本の最高峰ベスト3が一度に見られる風景」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P13環境・景観「視点②:優れた山岳景観と農村景観の保全」に基づき、取り組んで参ります。	頂いたご意見の主旨は『北杜市中部横断自動車道活用検討委員会』の所掌外のご意見です。 なお、頂いたご意見の中で「まちづくり計画のイメージが決まっている」に関しては、まちづくりビジョンは既存計画・上位計画と整合を図り取り組んでいくものです。 「1.新たな道の保守点検で財政的に可能か？ 2.そのとき、従来の道の保守も含め、保守人員、技術者の確保は出来るのか？」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P14くらし「視点①:安全・安心の確保に向けて」に「維持・管理」に関する文章を追記します。 「3.八ヶ岳南麓に高速道路が出来て、人口減や観光に悪い影響がでないか？」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P18観光「基本方針:にぎわい創出玄関口づくり」に基づき、取り組んで参ります。 「4.特Aランクの梨・北米の収穫量、ランクに悪い影響がでないか？」(水量、水質、品質、耕作面積、就農者数など)に関しては、まちづくりビジョン(素案)P16地域活性化「視点①:六次産業化・農業と観光の融合による地域活性化」に基づき、取り組んで参ります。 「観光や二地域居住の政策」に関しては、上位関連施策等と整合を図りながら(各種団体の取組とも調整を図りながら)進めて参ります。 「様々な分野(アートクラフト、飲食店、農産物、食品製造など)で、地域の環境を活かしたモノ作りで店舗などを構え、近郊都市からの集客を実現し地域活性化に貢献している」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P16地域活性化「基本方針:魅力あふれる元気なまちを目指して」に『八ヶ岳南麓の魅力に後押しされた豊かな経済活動の促進』という文言を追記します。 「清里の近くに高速道路のインターチェンジ設置をとの声もあるが、インターチェンジが出来たら、それだけで賑わいが戻ることは無い。軽井沢の例を挙げると、中心地を遠く離れたところにインターチェンジがあるが、それで、賑わいが無くなることは無かった。むしろ、中心地に行くまでの道路沿線に活気が出てきたし、中心地も同じようににぎわっている状況である。注目すべきは、インターチェンジから中心地への道が活性化したこと」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P18観光「基本方針:にぎわい創出玄関口づくり」に基づき、取り組んで参ります。 「清里の近くにインターチェンジが出来たら、観光客が増えても清里地区の宿泊業は衰退するであろう。更に、今は清里へは、長坂ICから県道28号線、須玉ICから国道141号線が主要な道となっているが、高速道路が出来たら、今でも少ない交通量の中で頑張って営業を続けている個性的な店が決定的なダメージを受けることになる。つまり、清里の一部の観光スポットが賑わうが、清里の宿泊業者、県道28号、国道141号沿いの店が衰退し、北杜市の観光産業に大きなダメージになる」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P16地域活性化「基本方針:魅力あふれる元気なまちを目指して」に基づき、取り組んで参ります。 「自然の中で、澄んだ空気がもたらす青空と夜の星がいっぱい見える星空、八ヶ岳の伏流水のおいしい水、北にくだらかに広がった八ヶ岳、西に甲斐駒・北岳などの雄大な南アルプス、南に世界遺産富士山など、日本の最高峰ベスト3が一度に見られる風景」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P13環境・景観「視点②:優れた山岳景観と農村景観の保全」に基づき、取り組んで参ります。

「北杜市」からの文書（平成26年6月9日）

参考資料1 パブリックコメントで寄せられた意見一覧

対応案の赤字記載箇所は、ビジョン修正対応案

自022-29

No.	内容	対応案
22	標題：中部横断自動車道に関する意見 中部横断自動車道活用検討委員会事務局御中 中部横断自動車道には絶対、反対です。 中部横断自動車はもちろん、道路や橋のインフラに関する行政の対応に對し不安と不満があり、筆を執らせていただきました。 現在、国の借金は6月の時点で1,000兆円を超え、3ヶ月後の9月には1,011兆円となり、増える一方です。 その反面、人口の減少は止まることを知らず、2060年には9,000万人を割込み、高齢化率は40%に近い水準になると推計されています。 この日本の状況を鑑みると道路、トンネル、橋及び上下水道等のインフラについては老朽化に対応するだけで精一杯のはずです。 しかし現政権下では『国土強靱化』の旗の元、新規の高速道路建設に邁進しています。 今回の中部横断自動車道においても、北杜市内だけでも2,000億円の税金が投入されようとしています。 行政のこのような無計画なインフラ政策に對し、下記のモットーに移行する時期ではないかと考えます 『造つくるから繕つくるへ』 今後、私達は人口減少を受け、限りある財源の中から本当に必要なインフラに優先順位をつけていかねばなりません。 近い将来、財政の破綻が現実味を帯びてきます。 国交省の方々には未来の後輩に軽蔑されないよう、この時点で賢明な施策に移行するよう願っております。	頂いたご意見の主旨は『北杜市中部横断自動車道活用検討委員会』の所掌外のご意見です。
23	標題：中部横断自動車道活用検討委員会事務局 中部横断自動車道活用検討委員会事務局御中 パブリックコメント ★新潟に早く行けるようにするなら、141号の改修の方が、工期が早いし費用も少ない。南麓を通す高速道路反対・141号改修を ★工事に10年もかかり、その期間中の工事場周辺は、騒音とダンプの通行、ホコリで生活環境が悪くなる。南麓を通す高速道路反対・141号改修を ★高速道路の保守費用は、ずっと続く。今の北杜市や県は、いまの道路の保守も出来ない状態だ。合併特例の交付金も無くなるし。南麓を通す高速道路反対・141号改修を ★山梨の経済は、佐久方面に依存しているのではなく、東京方面に依存している。中央高速の東京方面の渋滞を解消や、その代替道路の20号の整備が、山梨経済にとって大事なので、そっちに金を使って。南麓を通す高速道路反対・141号改修を ★141号線改修が、環境の負担も少なく費用も安い。南麓を通す高速道路反対・141号改修を ★141号線を改修すると、沿線の店も活性化される。店も多くなる。南麓を通す高速道路反対・141号改修を ★Bルート前提の活用検討委員会はおかしい。住民の意見でルートをきめるべき。南麓を通す高速道路反対・141号改修を ★八千穂までは、141号線を整備するだけで充分。生活道路なので、早く改修して。南麓を通す高速道路反対・141号改修を ★北杜市の人口が増えているのは、南麓地域だけ。この移住者や別荘所有者が何故、ここに決めたのかをアンケートを取って。そうしたら南麓に高速を通すなど出来ないはず。南麓を通す高速道路反対・141号改修を ★1360mの高地に高速を通して冬場の安全は守れるのか。通行止め、事故、保守費用もかかる。南麓を通す高速道路反対・141号改修を ★高速道路によって生活の場と自然の場が分断される。この地への移住者は、自然の中での暮らしを求めてきた人で、これでは逃げ出す住民や、この地に移住しようとする人は来なくなるだろう。南麓を通す高速道路反対・141号改修を ★環境・景観にやさしく利便性のある道路を目指すなら、自然への影響が少ない、既にある141号線改修がよい。南麓を通す高速道路反対 ★環境を大切にしながら、という視点が大事で、生活面も重要である。それに対応できるのは、141号線改修だけだ。南麓を通したら環境と生活の両方が駄目になる ★絶対に、南麓を通さない。南麓を通す高速道路反対・141号改修を ★豊かな緑をなくすことのないように、かつ、生活道路も整備が必要。南麓を通す高速道路反対・141号改修を ★動物・生態系への影響が生じる可能性があるなら、開発は最小限にとどめるべきだ。南麓を通す高速道路反対・141号改修を ★滑らかな豊富な水資源、特に名水百選に選定された湧水等の地下資源は、今貴重である。高速道路開発で、それらは絶対に失われる。高尾でも、滝が枯れることが無いと言われたが、実際には枯れた実績がある。壊れた自然は戻らない。南麓を通す高速道路反対・141号改修を ★眺望が人工物で少しでも壊れることは絶対に許せない。人工的な植栽でも、自然ではない。景観が分断される。南麓を通す高速道路反対・141号改修を ★南麓に、景観を壊す人工物はいらない。南麓を通す高速道路反対・141号改修を ★SAPA等を含む道路からの景観だけを良くしても、住宅地からSAPAを見ると、自然の中の人工物を見ることになる。騒音や光害で生活静穏権が犯される。南麓を通す高速道路反対・141号改修を ★建設技術がいくら進歩しても、自然の美しさを越えることは出来ないし、開発時には、必ず自然は壊れる。一度壊れた自然は、回復まで、数十年かかる。南麓を通す高速道路反対・141号改修を	頂いたご意見の主旨は『北杜市中部横断自動車道活用検討委員会』の所掌外のご意見です。 なお、頂いたご意見の中で「141号改修を」、「現状の141号は、曲がり角が多い。場所に よっては大型が対向できない。生活道路で危険である」、「現状危険な141号を改修すれば」、「生活道路も整備が必要」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P15くらし「視点②」くらしやすさの向上」に基づき、取り組んで参ります。 「工事場周辺は、騒音とダンプの通行、ホコリで生活環境が悪くなる」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P13環境・景観「視点③」：良好な生活環境への配慮」に基づき、取り組んで参ることとし、まちづくりビジョンを策定した後、ビジョンを達成するための道路プラン策定の際の参考意見とさせていただきます。 「ハヶ岳PAから長坂ICの間は3kmしかないがその間にもう一つICを作るのは常識的に考えて危険」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P14くらし「視点①：安全・安心の確保に向けて」に基づき、取り組んで参ります。 「1360mの高地に高速を通して冬場の安全は守れるのか」に関しては、冬季の走行安全性に関するご意見と捉えており、まちづくりビジョン(素案)P14くらし「視点①：安全安心の確保に向けて」に基づき、取り組んで参るとともに、まちづくりビジョンを策定した後、ビジョンを達成するための道路プラン策定の際の参考意見とさせていただきます。 「動物・生態系への影響が生じる可能性があるなら、開発は最小限にとどめるべき」、「滑らかな豊富な水資源、特に名水百選に選定された湧水等の地下資源は、今貴重である」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P12環境・景観「基本方針：多様な自然・環境・景観とともに」に基づき、取り組んで参ります。 「SAPA等を含む道路からの景観だけを良くしても、住宅地からSAPAを見ると、自然の中の人工物を見ることになる」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P13環境・景観「視点②：優れた山岳景観と農村景観の保全」に基づき、取り組んで参ります。

「北杜市」からの文書（平成26年6月9日）

参考資料1 パブリックコメントで寄せられた意見一覧

対応案の赤字記載箇所は、ビジョン修正対応案

自022-30

No.	内容	対応案
	★いくら現在の技術を使っても、土手、防音壁、植栽などでハケ岳の景観は、必ず壊れる。南麓を通す高速道路反対・141号改修を ★世界遺産を目指す山岳景観に道路ができては世界一とは言えない。南麓を通す高速道路反対・141号改修を ★高速整備で一般道よりも排ガスなどは少なくて済むとの意見があるが、排ガスは減っても、騒音は大きくなる。南麓を通す高速道路反対・141号改修を ★現状の141号は、曲がり角が多い。場所によっては大型が対向できない。生活道路で危険である。早く141号線改修を。 ★現状危険な141号を改修すれば、長野県の方にも安全に行きやすくなる。若い人は、色々見聞きできる。南麓を通す高速道路反対・141号改修を ★現状危険な141号を改修すれば、北関東方面にも行き易くなる。南麓を通す高速道路反対・141号改修を ★長野側にとっても、141号を改修すれば、山梨県にも来易くなる。南麓を通す高速道路反対・141号改修を ★ハケ岳PAから長坂ICの間は3kmしかないがその間にもう一つICを作るのは常識的に考えて危険。南麓を通す高速道路反対・141号改修を ★救急医療面を課題に挙げているが、元々、山梨県側は、甲府方面に搬送しているで、問題ない。山岳地域での救急搬送は、ドクターヘリか、救急病院を配置すべき。道路を造って解決する問題ではない。南麓を通す高速道路反対・141号改修を ★防災面でも141号線改修で、ミッシングリンクの解消条件である60km/hで走れる道路は一部バイパスなどの改修で可能。南麓を通す高速道路反対・141号改修を ★農地の基盤整備をしたところは避けていただきたい。南麓を通す高速道路反対・141号改修を ★山岳景観を売りにしているので、景観を守って欲しい。南麓を通す高速道路反対・141号改修を ★新潟まで開通すると、物流拠点ができる可能性が高いとの意見も見受けられるが、1360mの急勾配の高地を通る高速道路は危険で、霧や冬期は雪や凍結などによる事故で通行止めが多いだろう。片側1車線で、事故や工事があると、頻繁に片側交互通行になるだろう。そのような高速道路を運送会社は輸送時間が読めないで利用しない。南麓を通す高速道路反対・141号改修を ★アクセスについては、清里ICが良い。観光客を考えるなら、清里駅近いほうが良いとの意見があるが、軽井沢はICが山の中だが、観光客は多い。ICがあることが観光客が増える条件ではない。逆に、山梨市のように、日帰り圏になって宿泊客が減ることになる。南麓を通す高速道路反対・141号改修を 最後に 国交省の甲府河川局は清里高原道路を利用する以前の計画は「ミスってしまった」とあっさり反省していましたよ、なのでこの計画もそんな根拠もない計画、つまり白紙となるでしょう	「高速道路によって生活の場と自然の場が分断される」、「環境を大切にしながら、という視点が大事で、生活面も重要である」、「南麓を通したら環境と生活の両方が駄目になる」、「騒音や光害で生活静穏権が犯される」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P13環境・景観「視点③:良好な生活環境への配慮」に基づき、取り組んで参ります。 「環境・景観にやさしく」、「豊富な緑をなくすことのないように」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P12環境・景観「視点①:豊かな自然環境との調和」に基づき、取り組んで参ります。 「現在の技術を使っても、土手、防音壁、植栽などでハケ岳の景観は、必ず壊れる」、「世界遺産を目指す山岳景観」、「山岳景観を売りにしているので、景観を守って欲しい」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P13環境・景観「視点②:優れた山岳景観と農村景観の保全」に基づき、取り組んで参ります。 「アクセスについては、清里ICが良い」に関しては、まちづくりビジョンを策定した後、ビジョンを達成するための道路プラン策定の際の参考意見とさせていただきます。 「山梨市のように、日帰り圏になって宿泊客が減ることになる」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P19観光「視点③:周遊・滞在(型)観光を促進する情報発信の工夫」に基づき、取り組んで参ります。
24	標題:中部横断自動車道まちづくりパブリックコメント 中部横断自動車道活用検討委員会事務局 北杜市役所道路河川課御中 中部横断自動車道の計画は当初から反対で何度も説明会に出席し反対の意志を示してきました。(長野県側は反対ではありません——何も言えません) 北杜住民や別荘の方の大多数が反対なのに何を持って「中部横断自動車道」の計画が進んでいるのですか? 道路建設のメリットとして、緊急性の道路・観光・東京へのアクセス……等々が上げられていますがこのメリットは高速道路の建設とは関係ありません。 国道141号の整備する事で、高速道路のメリットは全て解消されさらに環境・建設費の削減・ハケ岳地域の過疎化の防止……等々のメリットが上げられます。 何故、国道141号の整備案が自動消滅しているのですか? 今回の道路建設は①高速道路を作るのか? ②国道141号の整備か? ——このどちらを検討し、そして選択して進めていくのではないのですか? 高速道路は不要です。 国道141号をしっかりとまじめに検討すれば、北杜市民にとって素晴らしい道路になります。 高速道路が出来れば思ったよりも過疎化が進み北杜市の発展は遅い……などのような構想でまちづくりをされるのですか? 国道141号を整備すれば人々が集まり観光が栄え、まさに北杜市のまちづくりになるのです。 高速道路は反対です。	頂いたご意見の主旨は『北杜市中部横断自動車道活用検討委員会』の所掌外のご意見です。 なお、頂いたご意見の中で「国道141号の整備する事で」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P15「くらし」視点②:くらしやすさの向上」に基づき、取り組んで参ります。 「環境・建設費の削減・ハケ岳地域の過疎化の防止……等々のメリットが上げられます」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P12環境・景観「基本方針:多様な自然・環境・景観とともに」、P16地域活性化「基本方針:魅力あふれる元気なまちを目指して」に基づき、取り組んで参るとともに、まちづくりビジョンを策定した後、ビジョンを達成するための道路プラン策定の際の参考意見とさせていただきます。

「北杜市」からの文書（平成26年6月9日）

参考資料1 パブリックコメントで寄せられた意見一覧

対応案の赤字記載箇所は、ビジョン修正対応案

自022-31

No.	内容	対応案
25	パブリックコメント 「〔仮称〕中部横断自動車道を見据えた北杜市まちづくりビジョン(素案)」への意見書 新ルート決定までの経過は不可解 2012年10月4日に関東地方小委員会が旧清里有料道路ルートの変更を示してからたった1か月後に新ルートA/B案が発表されました。1・2回のアンケートにも載っていないルートでした。高速道路のルートがこんなに簡単に決められてよいはずがありません。現地調査の時間もなく、地図上に清里から長坂まで筆で線を引いただけのものと思われます。沿線地域に生活している人々からの反対の意思表示は強いものであったのは当然なことでした。 私たちは、突然出されたこの新ルート案に反対です。 何故まちづくりビジョンが必要なのか？ そして何故今なのか 地元説明会では高速道路は順調に進んだとして13年後に完成とのことでした。 まだ新ルートが決定されていないにも拘らず中部横断自動車道活用検討委員会が作られ、なにも議論がなされない会議が3回行われてビジョン素案が出されました。なぜこのように急ぐのでしょうか。それは昨年6月に出されたワーキンググループが出した付帯条件「継続して地元住民の意見を聞く仕組みづくりを構築すること」によるものです。このようにまちづくりビジョンが高速道路の建設のために形式的に作られて良いのでしょうか。 私たちは、このような活用検討委員会の開催と、そこでの議論の進め方に憤りを感じています。 中部横断自動車道ができた 活用検討委員会の資料によれば中部横断道が作られたら多くの良いことが並べられています。ビジョンの基本方針には「豊かな自然環境との調和」「暮らしやすさの向上」「農業と観光の融合による地域活性化」「ゆたかな景色を満喫できる場の工夫」が並んでいます。これらの全てが、人工的なシンボルにもなっている高速道路によって破壊されるものと沿線住民の私たちは感じているものです。 中部横断道新ルートの計画は交通量の少なから片道1車線になっています。有料にしても採算が取れないので国直轄方式で無料になりそうです。当然サービスエリアは作られません。そして国道141号線、県道28号線沿線の商店は交通量の激減による衰退が避けられません。 新ルート発表で地域地民間の深くなる溝 ここハケ岳南麓は日本には稀有な山岳景観と豊かなハケ岳の森に囲まれて静かな生活に適した地域です。首都圏に近いという条件もありリタイア後の静かな生活を求めて移住している人そして、避暑地として別荘が多いのが特徴になっています。この人たちは静かな生活を望んでいることから高速道路には反対です。そして中部横断道建設を数十年と働きかけてきた集落の住民は当然にも賛成です。コミュニケーションの少ない地域住民間で賛成・反対を主張すれば悪い感情が醸し出されることは当然の成り行きになります。地元説明会の場でもこの感情の噴出が見られました。地域住民の融和を求めてしかるべき北杜市当局は反対の考えを持っている人たちの運動を押さえ込むことしか念頭にないのは残念としか言えません。地域の活性化には住民間の良好なコミュニケーションがあることが不可欠です。 地域の活性化とは何か 野辺山から国道141号を南下するとハケ岳南麓地域の特徴がよくわかります。それまでの国道141号だけの一本道からハケ岳横断道、県道28号、広域農道等多くの道に枝分かれをしています。そして、ゆたかな森と田園の中に集落と移住者の家が点在しています。レストラン、カフェ、パン屋さんが多くあるのも特徴の一つです。クラフト作家の工房が隠れているのも他にないものの一つです。自然の風景が創作活動を後押ししているのは間違いのないことです。ハケ岳南麓の地域は独特の雰囲気と豊かな経済活動がなされているのです。これらのことは生活している人々のたゆまぬ努力で作られているものです。決して行政の指導とかビジョンによるものではありません。そういう住民たちの努力を十分に汲み取って行政の施策に生かしていくために、活用検討委員会では「B案が前提」という枠を設けるのではなく、もっと幅広い立場で市民の意見を聞くことが必要です。 住民参画型の道づくりを！ この道路のルートを住民参画で協議してまとめてほしいと度々要望してきました。しかし北杜市は、ルートは国が決めるものとの考えを変えませんでした。国は、北杜市が動かないからやらない、とお互い「火の粉を振りたくない」と思ったのでしょうか。この地域住民置き去り、住民が犠牲になる構図でもあることをどのように考えているのでしょうか。 どのような道路をどこに通すのが地域活性化につながるか、少しでも良い判断をするため国交省もガイドラインを設けて住民参画での道づくりを進めています。住民参加により計画の当事者意識も生まれ、行政への信頼も増すのではないかと思います。他の地域でできている住民参画型道づくりがここ北杜市では何故できないのでしょうか。 最後に基本理念 以下の文はビジョンの基本理念として作られています。 地域を『つなぐ』、地域を『支える』、地域『なじむ』 地域との『協働』による北杜のまちづくり・みちづくり この言葉どおり、原点に返ったまちづくり、まちづくりのため、活用検討委員会は休止し、幅広い市民間協議をはじめたことを提案します。	頂いたご意見の主旨は『北杜市中部横断自動車道活用検討委員会』の所掌外のご意見です。 なお、頂いたご意見の中で「国道141号線、県道28号線沿線の商店は交通量の激減による衰退が避けられません」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P16地域活性化「基本方針：魅力あふれる元気なまちを目指して」に基づき、取り組んで参ります。 「ハケ岳南麓は日本には稀有な山岳景観と豊かなハケ岳の森に囲まれて静かな生活に適した地域です」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P13環境・景観「視点②：優れた山岳景観と農村景観の保全」に基づき、取り組んで参ります。 「地域の活性化には住民間の良好なコミュニケーションがあることが不可欠です」に関しては、ビジョンを達成するための道路プラン策定においても、引き続き地域の皆様のご意見を伺いながら検討して参ります。 「ゆたかな森と田園の中に集落と移住者の家が点在しています。レストラン、カフェ、パン屋さんが多くあるのも特徴の一つです。クラフト作家の工房が隠れているのも他にないものの一つです。自然の風景が創作活動を後押ししているのは間違いのないことです。ハケ岳南麓の地域は独特の雰囲気と豊かな経済活動がなされているのです」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P16地域活性化「基本方針：魅力あふれる元気なまちを目指して」に「ハケ岳南麓の魅力に後押しされた豊かな経済活動の促進」という文言を追記します。

「北杜市」からの文書（平成26年6月9日）

参考資料1 パブリックコメントで寄せられた意見一覧

対応案の赤字記載箇所は、ビジョン修正対応案

自022-32

No.	内容	対応案
26	パブリックコメント 「(仮称)中部横断自動車道を見据えた北杜市まちづくりビジョン(素案)」について 活用検討委員会及びまちづくりビジョンについて考えてみました。 ①活用検討委員会は国交省(ワーキンググループ)の要請を受けて作られたもので北杜市道路部河川課が担当になっている。まちづくりにはなじまないと。 ②活用検討委員会は新ルートが前提になっており意見・議論の幅を狭いものになっている。(残念なこと) ③活用検討委員会のメンバーは機械的に選ばれており真実にまちづくりを考える人選になっていない。 ④以上から活用検討委員会は形式的にならざるを得なく「何の意見を言ったらよいかわからない(第2回)」「この論議は刺身のつま(第3回)」といったもったもなし意見が出ている。 ⑤まちづくりビジョンは役人が作り上げたもので活用検討委員会もそれを追認するだけになるであろう。 ⑥活用検討委員会は新ルートの既成事実化を進めるもの以外にはない。本来まちづくりという地域にとって基本的な問題は地域住民の自由な意見や考え方が保障されて初めて実りあるものになるものである。地域住民の高速道路新ルート反対の動きを押しつぶすことを目的にしてまちづくりという基本的な問題を利用するようなことはあってはならない。このまちづくりビジョンは良い結果をもたらさないであろう。	頂いたご意見の主旨は『北杜市中部横断自動車道活用検討委員会』の所掌外のご意見です。 なお、頂いたご意見の中で「本来まちづくりという地域にとって基本的な問題は地域住民の自由な意見や考え方が保障されて初めて実りあるものになるものである」に関しては、ビジョンを達成するための道路プラン策定においても、引き続き地域の皆様のご意見を伺いながら検討して参ります。
27	パブリックコメント 「(仮称)中部横断自動車道を見据えた北杜市まちづくりビジョン(素案)」について 現在の計画で中部横断道が出来た時のことを考えてみました。 ①ハケ岳南麓を横断する高速道路の出現で景観は破壊されます。 ②自然の生活を求めてハケ岳南麓に移住している人たちは大きなダメージを受けます。そしてこの地から逃げ出すでしょう。 ③国道141号線、県道28号線の交通量は減少して沿線の商店等は苦しい営業を余儀なくされるでしょう。 ④新旧住民の考えの違いがクローズアップされ地域の雰囲気は更に悪くなるでしょう。 ⑤八千穂・長坂間で2000億円の建設費がかかると言われています。この金額は大泉町の2000世帯で請け負った場合、各1億円の負担になるほどの大きな金額です。 ⑥巨額の借財の見返りは地域の衰退化であることは以上の①～④の内容で明らかです。中部横断道新ルートは計画を見直す事がもっとも良い方法とおもわれます。	頂いたご意見の主旨は『北杜市中部横断自動車道活用検討委員会』の所掌外のご意見です。 なお、頂いたご意見の中で、「ハケ岳南麓を横断する高速道路の出現で景観は破壊されます」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P12環境・景観「基本方針:多様な自然・環境・景観とともに」に基づき、取り組んで参ります。 「国道141号線、県道28号線の交通量は減少して沿線の商店等は苦しい営業を余儀なくされるでしょう」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P16地域活性化「基本方針:魅力あふれる元気なまちを目指して」に基づき、取り組んで参ります。
28	「(仮称)中部横断自動車道を見据えた北杜市まちづくりビジョン(素案)」について 活用検討委員会及びまちづくりビジョンについて述べさせていただきます。 「B案前提」での活用検討委員会及びまちづくりビジョンのあり方はおかしいと思います。 まず、検討する場合には、「このハケ岳南麓に高速道路が必要か否か」で論議すべきです。 私は、このハケ岳南麓を横断する高速道路は必要ないと思っています。そして、「B案前提」の活用検討委員会は休止し、市民参加の協議をするべきだと考えています。 1、活用検討委員会は、「B案前提」を条件にしています。なぜ、「ハケ岳南麓」に高速は必要か否かから論議を始めないのでしょうか。また、委員の選出にも問題があります。一般公募して、どういう街づくりが良いか、大きな視点に立った話し合いをすべきだと思います。現状の活用検討委員会は、委員会に出席した委員たちが、「何をどう話せばよいのか」「我々委員は刺身のつまなのか」と言った発言があるほど、意義づけも内容もはつきりしない活用検討委員会です。 2、アンケート結果や地元説明会での多くの意見は「ハケ岳南麓」に高速道路はいらない。141号の改修を」でした。その民意を無視した形で、現在の活用検討委員会に至っていることはとても残念です。 3、世界遺産を目指すハケ岳南麓に、横断する道路ができて、人工的な景観を作ったのでは世界一とはいえません。横道が多く存在する北杜市では、この多くの道を活用した観光地として、国交省が行う日本風景街道に「ハケ岳南麓風景街道」として認定されています。観光客をよぶには、こうした自然と調和する街づくりを考えていく必要があります。 4、高速道路ができれば街が活発化するのではなく、その土地にあった環境を考慮しながらの観光を考えなければ観光客は呼べません。さらに、この地の自然を求めてきた別荘や移住者が高速道路ができることによって離れていきます。また、ハケ岳には、物づくりを生業にしている工房やこの地のおいしい水を使ったパン屋さんなど個性豊かな店舗が多くありますが、その魅力ある地域が高速道路の建設によって無くなる可能性もあります。高速道路建設は観光客を呼ぶどころか長野への通過地点に成り、国道141号や県道28号にある店舗も衰退してゆきます。 5、ビジョンの基本理念通り、地域を『つなぐ』、地域を『支える』、地域に『なじむ』地域との『協働』による北杜のまちづくり・みちづくり。この言葉どおり、原点に返ったまちづくり、まちづくりのため、活用検討委員会は休止し、幅広い市民間協議をはじめたことを提案します。 2014年1月29日	頂いたご意見の主旨は『北杜市中部横断自動車道活用検討委員会』の所掌外のご意見です。 なお、頂いたご意見の中で「世界遺産を目指すハケ岳南麓」、「観光客をよぶには、こうした自然と調和する街づくりを考えていく必要があります」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P12環境・景観「視点①:豊かな自然環境との調和」に基づき、取り組んで参ります。 「ハケ岳には、物づくりを生業にしている工房やこの地のおいしい水を使ったパン屋さんなど個性豊かな店舗が多くあります」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P16地域活性化「基本方針:魅力あふれる元気なまちを目指して」に「ハケ岳南麓の魅力に後押しされた豊かな経済活動の促進」という文言を追記します。 「国道141号や県道28号にある店舗も衰退してゆきます」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P16地域活性化「基本方針:魅力あふれる元気なまちを目指して」に基づき、取り組んで参ります。

「北杜市」からの文書（平成26年6月9日）

参考資料1 パブリックコメントで寄せられた意見一覧

対応案の赤字記載箇所は、ビジョン修正対応案

自022-33

No.	内容	対応案
29	(仮称)中部横断自動車道を見据えた北杜市まちづくりビジョン(素案)に関する意見書 私たちは行政の末端組織である北杜市大泉町下井出地区内に所属する東組(22世帯)の住人です。 私たち東組は一昨年11月21日の新ルート提案があった直後に「大泉町下井出地区東組高速道路反対対策委員会」を結成し新ルート提案に反対の意思表示をしてきました。東組のすべての家が新ルートで示された1キロ幅に入っているからです。 この新ルート提案はあまりにも唐突なもので長年、中部横断道の建設推進活動に携わってきた北杜市会議員の*****も今回のルートの決め方には憤りを感じますと3月の議会で所信表明をしたほどでした。 私たちもまた、その後の国交省の進め方に大きな憤りを感じています。 その内容は主に以下の2点であります。 1点は、新ルートにはA・B案があり選択肢があるように装われていますが、大半の地域で選択肢がありませんでした。国交省の説明によると「3°幅のルート帯から絞り込んだ結果であり、すでに代替案の比較、評価は終了しており、問題はない」とのことでしたが、第一回・第二回アンケート中には現在のA・Bルート案は存在しません。少なくとも私たち東組22世帯には選択肢はなかったのです。 2点は、平成24年度第2回関東地方小委員会で*****から「WGの実施に当たっては、丁寧なコミュニケーション活動を行っていく必要がある。」とのご提案を頂きました。しかしながらせっかく設置したワーキンググループ(以下WG)も機能不全のまま終了してしまいました。 地元説明会での反対意見の集中にあつて混乱した状態を打破すべく5月1日の*****の「B案が妥当」という提言、その後の*****の中部横断道の早期着工とB案の要望が出されました。これらの動きは国交省が描いたシナリオによるものであると、私たちは認識しています。地元説明会では、地域住民から多くの反対意見や疑義が出されましたが、第3回WG審議の中では一切触れることは無く、行政の長の声を利用し「B案が妥当」という結論が出されました。何のためのWGの設置だったのでしょうか。 同封のチラシは私たち東組が居住する下井出地域80世帯への訪問配布用に作られたものです。移住者で作られている東組と昔からの地域生活者の間で多くの葛藤があることは想像できることです。それでも下井出地域は比較すれば八ヶ岳南麓では良い形のモデルケースと言われています。 その地域に新ルートが提案されました。中部横断道への建設を長年望んできた昔からの地域の人たちは賛成、静かな生活を望んでいる移住者は反対と色分けされるのは当然のこととなりました。日常的にコミュニケーションが少ない状態で賛成、反対の意見が出されれば悪感情が醸成されるのは必至となります。この地域住民間の「新旧住民間の溝」問題は北杜市全域の問題でもあります。新ルート提案がなされての大きなマイナスの側面であることは間違いありません。 私たち東組は、第3回WGで提案された付帯意見<地域のまちづくりと高速道路整備が調和するように、継続して地元住民の意見を聞く仕組みを構築すること>を受ける形で、北杜市が早速に「中部横断道活用検討委員会」を設置したと認識しています。しかしながら「新旧住民間の溝」が深くなることを放置して「中部横断自動車道を見据えた北杜市まちづくりビジョン」を作成し、<地域のまちづくり>や<地域の活性化>を達成することは不可能です。 このように「高速道路建設ありき」の付帯意見は、国土交通省の手法が住民の意見をあたかも聴いているかのようなアリバイ工作であることを示しています。 この下井出地域ではありがたいことに立て看板を立てる場所の地権者の協力がスムーズに行われました。そして新ルート反対署名も65%の人たちが名前を書いて下さいました。 このチラシ訪問配布の目的は、東組の反対運動の考えを理解していただくということ、この一年間の下井出地域の人たちの変化の度合いを知ることでした。 その結果は、話の拒否、チラシの受け取り拒否はゼロでした。多くの人が快く話を聞きチラシを受け取ってくださいました。5グループに分けて戸別訪問をしましたのでその結果報告をした12月24日のクリスマスケーキを食べながらの定例会は盛り上がった会議になりました。ちなみにこの定例会はWGまでは週1回、WG後は2週に1回のペースで開催され1年間で35回にも上りました。新ルートで生活が破壊されるという以外でのもっとも大きな問題点である「新旧住民間の溝」はこの下井出地域では幸いのことにも小さなものになっているようです。 私たち東組の反対運動が理解されているということは新ルート提案に対する民意(地域住民の考え)をはかる上で重要な事柄です。この地域住民の考えの1つのメータの一つとして10回の地域説明会がありました。私たちは圧倒的な反対意見と受け止めていましたが国交省のWGへの報告では何故か賛成のほうが多くなっています。東組がある大泉町の回の説明会で50件以上の意見がありました。賛成意見は明野町在住の人の1件しかありませんでした。強く記憶に残っています。	頂いたご意見の主旨は『北杜市中部横断自動車道活用検討委員会』の所掌外のご意見です。 なお、頂いたご意見の中で、「八ヶ岳南麓は赤岳、権現岳のなだらかな斜面に位置し日本には珍しい空間を感じられる地域であります。そして八ヶ岳を背後に立った時、正面に鳳凰三山、北岳、甲斐駒ヶ岳の南アルプスの山並みを望み、左側に目を向ければ富士山の秀麗な山容をみる事ができます。東側奥にはひときわ目立つ金峰山をはじめとした奥秩父の山並みがみられます。このような眺望と八ヶ岳南麓の森によって作られる豊かな自然」に関して、まちづくりビジョン(素案)P12環境・景観「視点①:豊かな自然環境との調和」、P13環境・景観「視点②:優れた山岳景観と農村景観の保全」に基づき、取り組んで参ります。 「八ヶ岳南麓がこのような豊かな自然と景観の中で静かな生活を続けようとしている特別な地域であること」、「平穏生活権」を侵害、「高速道路建設による静かな生活を破壊しない(欲しい)」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P13環境・景観「視点③:良好な生活環境への配慮」に基づき、取り組んで参ります。

「北杜市」からの文書（平成26年6月9日）

参考資料1 パブリックコメントで寄せられた意見一覧

対応案の赤字記載箇所は、ビジョン修正対応案

自022-34

No.	内容	対応案
	他の意見はすべて反対もしくは疑義有というものでした。この問題は大泉町の説明会意見について精査すれば簡単にわかることです。ぜひ調査確認をおこなっていただきたいと思っています。私たちは間違ったデータを基にしたWGの「B案妥当」という答申は無効だと思っています。 私たち東組の居住しているハケ岳南麓は赤岳、権現岳のなだらかな斜面に位置し日本には珍しい空間を感じられる地域であります。そしてハケ岳を背後に立った時、正面に鳳凰三山、北岳、甲斐駒ヶ岳の南アルプスの山並みを望み、左側に目を向ければ富士山の秀麗な山容をみることが出来ます。東側奥にはひととき目立つ金峰山をはじめとした奥秩父の山並みがみられます。このような眺望とハケ岳南麓の森によって作られる豊かな自然が多くの人を魅了し日本各地から人々が移り住むようになっています。主に都会からの移住者によって行政区が出来ている形態は稀なこととしてあると思われまます。ハケ岳南麓がこのような豊かな自然と景観の中で静かな生活を続けようとしている特別な地域であることを知っていただき、南麓を横断する新ルートは稀有な自然環境を破壊し、多くの住民の「平穏生活権」を侵害し、新旧住民間の感情の溝を大きなものにすることを理解していただきたいと思っています。 私たち東組の多くがリタイア後の生活を静かに暮らすべくここハケ岳南麓の地に移住してきたものです。高速道路建設による静かな生活を破壊しないで欲しいのです。 国土交通省関東地方小委員会の*****は先日(1月14日)行われた私たち反対住民グループとの面談で「小委員会としてまだWGの結果を受け取ってない状況であり、WGの中間報告が出たからと言って、それをそのままはいと言って受け取らずに、私は私なりに今日頂いたご意見やご注意・ご懸念に関して精査させていただきます。」と発言されました。 この新ルートはまだ決まっていないのです。 私たち東組は、「中部横断自動車道を見据えた北杜市まちづくりビジョン」の一環として、<*****と住民が中部横断自動車道(長坂～八千穂)に関する多様な意見を話し合える会>を開催したり、北杜市を通過する道路が北杜市民の利益となるよう、国土交通省へく住民参画型の道づくりによるルート再検討を要望していただくことを提案いたします。 そして、国土交通省が提案した中部横断自動車道(長坂～八千穂)の山梨県内区間の「新ルート案」が北杜市にとって本当に良いものであるのか、WGの審議内容を含め、基本的な問題から再度精査をして頂きます様、*****及び委員の皆様は切にお願いいたします。 以上。 平成26年1月29日(チラシ添付あり)	
30	意見書(パブリックコメント) 中部横断自動車道活用検討委員会に対して中部横断自動車道(長坂～八千穂)の北杜市の推進のあり方などにつき意見を述べます。 平成25年10月18日、11月3日、11月5日の3回の内容証明文で公人土地問題について説明を求める内容証明を送付いたしましたが、意味不明の回答を平成25年10月24日に頂きましたが、土地の問題には答えて頂いていません。北杜市民が委員会に対して回答を求めているのですから、北杜市が設置した機関ならば公共機関として誠実に市民に対し回答するべきと思います。 又委員を*****に対して同等の質問を平成25年10月24日と平成26年1月3日の2回、回答を求めましたが返事がありません。この様に奥い物に蓋をして推進されるのは如何なものかと思えます。 答えられなければBルート案の白紙撤回を国に進言頂くべきと思います。 この様に市民の声に回答もせず、又一部の団体とだけ意見交換をして推進していく行動は第3回ワーキングの附帯事項の「継続して地元住民の意見を聞く仕組みを構築すること」とした付帯事項に背く行為だと思います。 そもそも附帯事項の一部はルートの選定に公平性を確保するためのものだと思います。 しかしながら附帯事項を満足させるために設置した活用検討委員会のメンバーや*****がルート帯の中に土地を所有すれば法律的に問題ないとしても公平性に欠けてしまうと思います。 活用検討委員会のメンバーは*****の権限の及ばない状態で、市民全体から公募で選び公平性を確保すべきです。 この内容証明で4回目になりますが、再度前回の内容証明で求めた回答を第4回活用検討委員会までにご回答ください。	頂いたご意見の主旨は『北杜市中部横断自動車道活用検討委員会』の所掌外のご意見です。 北杜市中部横断自動車道活用検討委員会は、「まちづくりビジョン」を審議することから、地域の代表者や地域の主要産業である観光、商業及び農業などの分野から委員を構成しています。多様な立場から意見を賜り、委員による合議制により審議を行うこととなっています。また、「まちづくりビジョン」は、委員のみの意見にとどまることなく、地域の皆様を対象に複数回にわたる意見の把握を行い、それらの意見を踏まえながら策定していくこととなります。 さらに、検討委員会は、「北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱」に基づき公開で審議されているところであり、検討委員会の開催や審議結果などの情報は北杜市ホームページに掲載し、透明性を確保しながら審議を行っています。 こうしたことから、「活用検討委員会のメンバーや任命した人がルート帯の中に土地を所有すれば法律的に問題ないとしても公平性に欠けてしまうと思います。活用検討委員会のメンバーは*****の権限の及ばない状態で、市民全体から公募で選び公平性を確保すべきです。」という意見について、検討委員会の目的達成に当たっては、問題がないと認識しているところです。
31	中部横断道活用検討委員会の町づくりビジョンに対するパブリックコメント 中部横断自動車道活用検討委員会作成の町づくりビジョンに対するパブリックコメントです。真摯に取り上げ検討いただけるようお願い申し上げます。 1. 北杜市都市づくり計画策定審議会、北杜市まちづくり審議会、土地利用審議会、北杜市まちづくり研究会など、これまでいろいろとやってきたことの整合性はどうか、矛盾はないのか、まちづくり推進課がやってきた大規模な市民アンケートはどうか反映しているのか、そして今回は道路河川課が町づくりをするという、まるで一貫性がないように思える。これでは税金の無駄遣いではないか。 2. 市の政策に関する基本的な計画の策定又は変更についてのパブリックコメントは、その実施機関は、市長、教育委員会、選挙管理委員会、監査委員、公平委員会、農業委員会及び固定資産評価審査委員会をいうと条例にある。北杜市中部横断自動車道活用検討委員会が町づくりビジョンを作成し、市民にパブリックコメントを求めることというのは、そもそも条例無視、違反ということはないのか。 3. ビジョンが示す4つの方針①多様な自然・環境・景観②安心安全で快適な町③地域活性化④環境の拠点づくり、一に高速道路が何故必要なのだろうか、高速道路はこれらの方針の実現を阻害しかねない不要なものではないだろうか。 4. 少子高齢化や障害者や福祉の視点はこれからの町づくりに必須の視点である。このビジョンにある4つの指針からはそれらが欠如していないだろうか。それらは別のところで言うのだろうか？ それでは片手落ちという大きな欠陥ではないか。 5. 高速道路の新設を少子高齢化や人口減の時代に町づくりのビジョンとすることは、当局のミスリードではないか。既に少子高齢化の時代に入差し、人口大幅減少の時代が来るのも近い。こうした近未来を見たとき、何故に高速道路をもって街づくりをしようとするのか、市当局の見識を疑います。	頂いたご意見の主旨は『北杜市中部横断自動車道活用検討委員会』の所掌外のご意見です。 なお、頂いたご意見の中で「北杜市都市づくり計画策定審議会、北杜市まちづくり審議会、土地利用審議会、北杜市まちづくり研究会など、これまでいろいろとやってきたことの整合性はどうか」に関しては、上位関連施策等と整合を図りながら(各種団体の取組とも調整を図りながら)進めて参ります。

「北杜市」からの文書（平成26年6月9日）

参考資料1 パブリックコメントで寄せられた意見一覧

対応案の赤字記載箇所は、ビジョン修正対応案

自022-35

No.	内容	対応案
	6. 北杜市は県外からの移住者や別荘所有者で、人口減から多少救われている面があります。でも南麓に高速道路を造ったら、この地を離れる人も出るでしょうし、この地を終の棲家と選択する人も減るでしょうし、別荘も減るでしょう。こうした北杜市固有の人口構成をも配慮した町づくりの視点が欠けているのではないだろうか。 7. 国交省アンケートでは、北杜市民の多くは高速道路を望んでいない。中部横断道の建設を前提とした街づくりを推進することはいかのなめか、税金を誤って使うことになる。 国交省が行ったこの地域の目標、課題に対する大規模なアンケートに、約6000名が参加し約16300件の回答が寄せられた。国交省によれば、この結果は、①通勤の走行性や安全性の向上が23.8% ②環境・景観の保全が23.6% ③地域の生活交通の円滑化が16.5%、④災害時の代替路の確保7.9% ⑤救急移動時間の短縮7% ⑥生産品の移動時間の短縮6% ⑦観光地間の連携向上6% ⑧企業誘致雇用の促進5% ⑨公共交通の利便性の向上4.8%であり、上位の三件と9番目をあわせると焼く70%になる。この数値は、約70%の人が地域の目標や課題として皆高速道路を志向していないことを示すものである。 同時に行ったアンケートによれば、北杜市民の50%は国道141の整備を望んでいるという事実もあることを無視できない。 8. ハケ岳南麓地域は今ある自然環境を保全することこそが、街づくりの基本でなくてはならない。このビジョンが目指している、北杜市らしい美しい町づくりや優れた環境の保全に高速道路は似合わない。ハケ岳南麓地域の売りは、なんといっても雄大な山岳景観であるが、それは足元の環境と農村景観があつてのものである。国交省が指定したルートを清里から上津金、旭山一堤山地域から長坂まで歩きました。このルート内は、森林あり、水田あり、民家あり、別荘あり、それらが点在する近景と、遠くの山岳景観があつて、ハケ岳南麓の代表的な景観の良い地域であることを実感しました。高速道路はこれ地域の価値を一気に貶めはしないか心配である。 9. 必ず来る大地震に備えた既存インフラの強化こそ最優先すべき課題ではないか。 東日本大震災以来、東海、東南海地震がいつ発生しても不思議でないほどにその可能性が高まっている。県道、市道、農道などの一般道路や橋、トンネルなどを、高い専門レベルで総点検し、耐震化を行うことが急務である。既に各種のメディアで報道されているように、いまだ信頼できるレベルの点検が行われていず、耐震化工事を行える予算もないのが現実である。巨大な国税を使って新規の高速道路を建設する余裕はないはずである。安全な街づくりこそ最優先されるべきである。 10. 税金の無駄遣いはやめましょう。八千穂～長坂間で約2000億円かかるといわれている。***も***も国に請願している「新直轄方式」とすると、その四分の一の約500億円が地方負担となる。こんなお金があるのなら既存インフラの点検整備に使うのが最優先ではないか。地方負担四分の一の補助金目当てでたの疑問もでてくる。それこそとんでもない無駄遣いである。 11. 視点②：くらしやすさの向上・子どもから高齢者まで暮らしやすいため、市内を走る国道141号などの道路網の整備や効率的かつ効果的な公共交通網の充実を図るなど、交通の利便性向上に取り組む必要があると考えます。そのとおりで、国道141の整備こそ優先すべきであり、南麓を横断する高速道路の必要性はない。ハケ岳南麓の道路整備は、国道141の改良整備で十分である。それは国交省案の4斜線の高速化ではなく、必要最小限の整備で十分な道路とすることができるはずである。 12. 民主党政権から自民党安倍政権に変わり、それまでの財政削減政策から、一気に公共事業ばら撒き型の国土強靱化政策で各地の高速道路計画が復活したが、今の政権はいうまでも続かないことを冷静にみるべきである。数年して、高速道路の新設は凍結される可能性もある。そうした他力本願的計画を町づくりビジョンの中心にするのはいかのなめだろうか。もっと真に地域の力を寄せ集めるような事業こそ町づくりの中心に据えるべきではないだろうか。 13. どうしてもこの道路を造る必要があると言うのなら、南麓の景観保全や地域生活への影響を最小とする配慮・工夫がいる。森林保全や野生生物への影響もあつてはならない。盛土で壁を作り、獣害を防ぐという入があるが、野生生物保護の観点から全くナンセンスである。南麓ルートは、全線地下または暗渠で作る。あるいはレインボーラインよりずっと上の森林地帯に造る。森林伐採という自然保護上の問題が大きいが。 14. 日本ミツバチの生息に大きなダメージを与えるおそれが大である。 予定ルートは標高域は日本ミツバチの生育ルートであり、養蜂家も多い。日本ミツバチはまた果樹の受粉や、ナラ、シイ、クヌギなどのドングリの実をつける広葉樹林の生育にも欠かせない役割を担っている。その日本ミツバチは近年農業禍や生息域の環境悪化により激減しているという。このルートに高速道路を通したら、わずかに残る高樹林の伐採と、ミツバチの飛翔に多大な影響を与える高速道路は、日本ミツバチの生育環境に大きなダメージを与える可能性がある。 15. 高速道路は、北杜市の目玉の一つであるハケ岳南麓にたいに生息するオオムラサキに悪影響を及ぼさないか心配である 16. 高速道路新設の費用便益分析の基本データとなる、国葬141の交通量や、高速道路による、野辺山一長坂一須玉間に対する、国道141による野辺山一須玉間の時間短縮効果などのデータを市民に示し、税金の無駄遣いにならないか早急に検証してほしい。 17. 農業用水路は多自然型の用水路として、積極的な水辺環境整備を行うこと。 ハケ岳南麓は、晴天が続いても河川の水が枯れることがないほど湧水が豊富である。この豊かな水が南麓の水田を支えている。農業用水路の整備があちこちで行われているが、コンクリートのU字溝やコンクリートの三面張り工法が行われている。農業用水路の果たす機能はただ水田に水を運ぶためのものだけではなく、水生生物の生息などの自然環境や、地域の環境・景観に重要な役割を負っている。国(農水省、環境省、国交省)も自然豊かな農業用水路を推奨している時代である。 コンクリート張りの用水路は、多自然型に改修し、これから改修する農業用水路は三面張りやU字溝ではなく多自然型の工法を採用すること。周辺地域に比べ北杜市はこうしたことへ配慮する姿勢が遅れているのではないかと、多様な自然環境・景観保全を町づくりビジョンの第一に挙げているのならこうしたことも明文化すべきではないか。農業用水は別部署の仕事というのでは、町づくりビジョンとはいえないと思う。 18. 豊かな森づくり・単純なアカマツ林にかえて、広葉樹林の魅力ある豊かな森づくりなども、街づくりのなかに位置づけしてほしいものである。 19. 北杜市にはヤマサキやオオムラサキに代表される貴重な動植物が多く生息していることから、動物の移動経路や食住環境の確保、貴重植物の移転による保全など生息ものに優しく、共存できる工夫や動植物への影響を最小限に抑える方策など、貴重な動植物に配慮したまちづくり・みちづくりの取組が必要と考えます。などと言っているが、貴重植物は現在の場所にあつてこそ貴重なものであつて、移植した場所で生息できる保証などない。今ある自然環境が北杜市の大切な財産と考えるなら、南麓に高速道路を通しことを前提とした町づくりはナンセンスである。	「少子高齢化や障害者や福祉の視点はこれからの町づくりに必須の視点である。このビジョンにある4つの指針からはそれらが欠如していないだろうか」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P14くらし「基本方針：安全・安心で快適な暮らしのために」に基づき、取り組んで参ります。 「国道141の整備を望んでいるという事実」、「視点②：くらしやすさの向上：子どもから高齢者まで暮らしやすいため、市内を走る国道141号などの道路網の整備や効率的かつ効果的な公共交通網の充実を図るなど、交通の利便性向上に取り組む必要があると考えます。そのとおりで、国道141の整備こそ優先すべき」、「国道141の改良整備」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P15くらし「視点②：くらしやすさの向上」に基づき、取り組んで参ります。 「ハケ岳南麓地域は今ある自然環境を保全することを中心に据えること」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P12環境・景観「視点①：豊かな自然環境との調和」に基づき、取り組んで参ります。 「ハケ岳南麓地域の売りは、なんといっても雄大な山岳景観であるが、それは足元の環境と農村景観があつてのものである」、「森林あり、水田あり、民家あり、別荘あり、それらが点在する近景と、遠くの山岳景観があつて、ハケ岳南麓の代表的な景観の良い地域であることを実感しました」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P13環境・景観「視点②：優れた山岳景観と農村景観の保全」に基づき、取り組んで参ります。 「安全な街づくりこそ最優先されるべき」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P14くらし「基本方針：安全・安心で快適な暮らしのために」に基づき、取り組んで参ります。 「南麓の景観保全や地域生活への影響を最小とする配慮・工夫がいる。森林保全や野生生物への影響もあつてはならない」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P12環境・景観「視点①：豊かな自然環境との調和」、P13環境・景観「視点②：優れた山岳景観と農村景観の保全」に基づき、取り組んで参ります。 「南麓の景観保全や地域生活への影響を最小とする配慮・工夫がいる」、「南麓ルートは、全線地下または暗渠で作る。あるいはレインボーラインよりずっと上の森林地帯に造る」、「農業用水路は多自然型の用水路として、積極的な水辺環境整備を行うこと」、「ハケ岳南麓は、晴天が続いても河川の水が枯れることがないほど湧水が豊富である。この豊かな水が南麓の水田を支えている。農業用水路の整備があちこちで行われているが、コンクリートのU字溝やコンクリートの三面張り工法が行われている。農業用水路の果たす機能はただ水田に水を運ぶためのものだけではなく、水生生物の生息などの自然環境や、地域の環境・景観に重要な役割を負っている。国(農水省、環境省、国交省)も自然豊かな農業用水路を推奨している時代」、「これから改修する農業用水路は三面張りやU字溝ではなく多自然型の工法を採用すること。周辺地域に比べ北杜市はこうしたことへ配慮する姿勢が遅れているのではないかと、多様な自然環境・景観保全を町づくりビジョンの第一に挙げているのならこうしたことも明文化すべきではないか」に関しては、まちづくりビジョンを策定した後、ビジョンを達成するための道路プラン策定の際の参考意見とさせていただきます。 「予定ルートは標高域は日本ミツバチの生育ルートであり、養蜂家も多い。日本ミツバチはまた果樹の受粉や、ナラ、シイ、クヌギなどのドングリの実をつける広葉樹林の生育にも欠かせない役割を担っている。」「北杜市の目玉の一つであるハケ岳南麓にたいに生息するオオムラサキに悪影響を及ぼさないか心配である」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P13環境・景観「視点④：貴重な動植物との共存」に基づき、取り組んで参ります。

「北杜市」からの文書（平成26年6月9日）

参考資料1 パブリックコメントで寄せられた意見一覧

対応案の赤字記載箇所は、ビジョン修正対応案

自022-36

No.	内容	対応案
32	標題:パブリックコメント 中部横断自動車道活用検討委員会事務局御中 ＜パブリックコメント＞ ★高速道路に反対 中部横断道は長野と東海道を結ぶ道路で山梨は通過点にすぎないことは明らか。 軽井沢から横浜に向かう人がわざわざ北杜市で降りるはずがない。 排気と騒音を残して通り過ぎる車のために北杜市の豊かな自然を犠牲にすることは愛する故郷を自分の金・地位・名誉のために売り渡す行為であり、今中国で騒がれている官僚の行為と極めてよく似ている。	頂いたご意見の主旨は『北杜市中部横断自動車道活用検討委員会』の所掌外のご意見です。 なお、頂いたご意見の中で、「中部横断道は長野と東海道を結ぶ道路で山梨は通過点にすぎないことは明らか」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P18観光「基本方針:にぎわい創出玄関口づくり」に基づき、取り組んで参ります。 「排気と騒音を残して通り過ぎる車のために北杜市の豊かな自然を犠牲にすること」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P12環境・景観「視点①:豊かな自然環境との調和」に基づき、取り組んで参ります。
33	NPO法人ハケ岳南麓景観を考える会 2014年1月28日 「(仮称)北杜市中部横断自動車道を見据えた北杜市まちづくりビジョン(素案)」へのパブリックコメント 私たちは世界一のハケ岳南麓の美しい景観を日本の財産と認識し、これを次世代に伝えようと活動している市民団体です。 高速道路が必要かどうかを検討している段階であるにもかかわらず、北杜市では、活用委員会を設け、中部横断自動車道の北杜市側(長坂一清里間)の高速道路建設がすでに決まったかのようにして、高速道路のある北杜市を前提としたまちづくりを検討していることに大変懸念と危機をもちます。今検討すべきは、高速道路が最良の選択か、それとも自然や景観を活かす国道141号の改善を検討すべきではないでしょうか。 素案の資料では、高速道路から見る景観の写真を多用し、そこに暮らす人々が見る高速道路の姿や高架橋になる可能性などについて言及することなく、また素案の意見も反対意見が多いにもかかわらず、賛成意見を多用し、また北杜市以外の賛成意見も入れた形の素案を作成して、パブリックコメントを募集していることに、恣意的な意図を感じざる負えません。 ここに、当会の意見および提案をさせていただきます。 1. 当会の意見 (1)ハケ岳南麓エリア(須玉川、川俣川の西側地域、及び津金)での、高速道路建設に反対します。 ハケ岳地域を通る高速道路は、景観を破壊し、平穏な生活を脅かします。 (2)北杜市にとって有益なのは、国道141号を改善して、速達性と安全性を向上することです。国道141号の改善を求めます。 ・生活道路でもあるので、改善をすれば、安全性が高まり、利便性も高まります。 ・ハケ岳南麓の景観と自然が守られるため、良質のリゾート地として価値を高めることができます。 ・須玉ICへの走行性・安全性の向上は、運送業者には大きなプラスです。 ・国道141号の通行量が増えるため、国道沿いの商業活動が活性化します。 ・通過型観光地となりません。高速から降りた観光客は、ゆっくりと良い景観を眺めながらドライブし、ハケ岳地域とその周辺で食事や買い物を楽しめるため、地域のビジネスチャンスが広がります。 ・震災時に市民が使えるのは、国道です。141号の改善は災害時に役立ちます。 (3)国道141号整備し、須玉ICで中央道に接続すべきです。 (4)長野側の中部横断自動車道の建設には反対していません。 2. 上記理由 (1)北杜市は、特にハケ岳地域は、世界屈指の眺望景観が地域経済の基盤となっています。 景観はハケ岳南麓の命です。全です。中部横断自動車道は、その景観を脅かし破壊するものです。 長坂から清里を通る中部横断自動車道は、地域経済を疲弊させることは明らかです。高速道路ができれば、ハケ岳南麓、ひいては北杜市全体も良質の観光地にはなり得ません。	頂いたご意見の中で、「ハケ岳南麓の美しい景観を日本の財産と認識」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P13環境・景観「視点②:優れた山岳景観と農村景観の保全」、環境・景観「視点③:良好な生活環境への配慮」に基づき、取り組んで参ります。 「景観を破壊」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P13環境・景観「視点②:優れた山岳景観と農村景観の保全」に基づき、取り組んで参ります。 「平穏な生活を脅かします」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P13環境・景観「視点③:良好な生活環境への配慮」に基づき、取り組んで参ります。 「国道141号を改善して、速達性と安全性を向上すること」、「生活道路でもあるので、改善をすれば、安全性が高まり、利便性も高まります」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P15「視点②:くらしやすさの向上」に基づき、取り組んで参ります。 「走行性・安全性の向上」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P15「くらしやすさの向上」に『安全性向上』という文言を追記します。 「高速から降りた観光客は、ゆっくりと良い景観を眺めながらドライブし、ハケ岳地域とその周辺で食事や買い物を楽しめるため、地域のビジネスチャンスが広がります」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P19観光「視点②:豊かな景色を満喫できる場の工夫」に基づき、取り組んで参ります。 「震災時に市民が使えるのは、国道です。141号の改善は災害時に役立ちます」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P14「くらしやすさ」視点①:安全・安心の確保に向けて」に基づき、取り組んで参ります。

「北杜市」からの文書（平成26年6月9日）

参考資料1 パブリックコメントで寄せられた意見一覧

対応案の赤字記載箇所は、ビジョン修正対応案

自022-37

No.	内容	対応案
	(2)高速道路は、景観だけでなく、静寂さや星空を愛す平穏な生活も脅かします。ハケ岳南麓の多数の住民や別荘所有者たちは、ここの自然、景観、静かな環境を求めて、ここを選び生活をしています。 (3) * * * のB案への突然の支持声明は、北杜市庁内でも議会でも、全く議論もせずに * * 独断で出されたものと聞こえています。さらに、観光協会も商工会も、会員の意見も聞かずに支持の意見を出しました。このように、市民の声を無視した市や公的機関の意見は、道路ありきの姿勢であり、将来を見据えて、真にこの地を豊かにするものはなにかを検討すべきです。 (4)交通の便が良くなれば、苦しくなるのが観光業です。便利になれば通過するか、日帰りになります。宿泊業者、特に清里の没落は、中央道ができた時に始まります。ましてや中部横断自動車道ができれば、このハケ岳地域全体、さらに北杜市全体が通過型になり、地域経済への打撃は明らかです。 (5)緊急医療施設への移動は、高速道路の必要性の課題ではありません。北杜市民は中部横断自動車道を利用して医療施設には行かないので、高速を必要とする課題にはなりません。 北杜市の住民は、緊急医療の場合、甲府方面なら一般道か、中央自動車道で、甲府中央病院や山梨医大へ、長野方面の諏訪中央病院、諏訪赤十字病院、富士見中央病院も、一般道か、中央自動車道で行きます。遠回りする中部横断自動車道は利用しません。 (6)中部横断自動車道が輸送時間の短縮になるか疑問です。長坂経由の中部横断自動車道は遠回りです。清里から東京方面なら、国道141号で須玉ICから中央道利用の方が便利です。名古屋方面へは、一般道から小淵沢ICからの中央道の利用となります。しかも、冬期は風と寒さによる凍結や雪で、通行止めが予想されるだけでなく、事故の危険も大きいのではないのでしょうか。 沿線の住民に、中部横断自動車道を利用するかどうかの調査もせず、中部横断自動車道が便利で利用されることを前提に議論することはおかしいです。 3. 国道141号の改善への提案 国道141号の改善に際し、機能的改善だけではなく、美しい景観の整備なども盛り込んだ、モデル道路とすることを提案致します。141号沿いにあるけばけばしい看板や廃屋を撤去し、自然を感じ心地よさを楽しめる道路に改善することが、質の高い観光客を引きつけるポイントになります。景観に配慮したモデル道路ができれば、全国的な話題を呼び、この地域の魅力が増し、継続的な経済効果が期待できます。 以上	「景観はハケ岳南麓の命です。宝です。中部横断自動車道は、その景観を脅かし破壊するものです」、「高速道路は、景観だけでなく、静寂さや星空を愛す平穏な生活も脅かします」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P12環境・景観「基本方針:多様な自然・環境・景観とともに」に基づき、取り組んで参ります。 「長坂から清里を通る中部横断自動車道は、地域経済を疲弊させることは明らかです」、「中部横断自動車道ができれば、このハケ岳地域全体、さらに北杜市全体が通過型になり、地域経済への打撃は明らかです」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P16地域活性化「基本方針:魅力あふれる元気なまちを目指して」、P18観光「基本方針:にぎわい創出・玄関口づくり」に基づき、取り組んで参ります。 「冬期は風と寒さによる凍結や雪で、通行止めが予想されるだけでなく、事故の危険も大きいのではないのでしょうか」に関しては、冬期の走行安全性に関するご意見と捉えており、まちづくりビジョン(素案)P14くらし「視点①:安全安心の確保に向けて」に基づき、取り組んで参ります。 「けばけばしい看板や廃屋を撤去し、自然を感じ心地よさを楽しめる道路に改善することが、質の高い観光客を引きつけるポイントになります。景観に配慮したモデル道路ができれば、全国的な話題を呼び、この地域の魅力が増し、継続的な経済効果が期待できます」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P12環境・景観「基本方針:多様な自然・環境・景観とともに」に基づき、取り組んで参るとともに、まちづくりビジョンを策定した後、ビジョンを達成するための道路プラン策定の際の参考意見とさせていただきます。

「北杜市」からの文書（平成26年6月9日）

参考資料1 パブリックコメントで寄せられた意見一覧

対応案の赤字記載箇所は、ビジョン修正対応案

自022-38

No.	内容	対応案
34	標題：パブリックコメント 中部横断自動車道活用検討委員会事務局御中 パブリックコメント 高速道路に反対である。 日本の他の地域に比べこの北杜市は衰退することなく着実に進化してきている。これは北杜市が他地域からの移住者を受け入れてきた結果であると思うがその移住者は北杜市の魅力に惹かれて移り住んでいる。人口が増えて市内の商店も潤い新旧住民が一緒になってこれまでにない新しい魅力も生まれてきている。 この北杜市の魅力の原点は何といっても豊かな自然と雄大な景色であり、人工的に造ることの出来ないこの地の自然から生まれたものである。高速道路はこのかけがえのない魅力を壊してしまう。魅力がなくなれば移住者も減って次第に人口は減少し、高速道路沿線によく見られる過疎の部落に逆戻りしてしまう。 子孫に対する責任に目をつぶって、壊すことに無神経な人が故意に高速道路の建設を進めることが一番問題である。	頂いたご意見の主旨は『北杜市中部横断自動車道活用検討委員会』の所掌外のご意見です。 なお、頂いたご意見の中で、「北杜市の魅力の原点は何といっても豊かな自然と雄大な景色」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P13環境・景観「視点②：優れた山岳景観と農村景観の保全」、環境・景観「視点③：良好な生活環境への配慮」に基づき、取り組んで参ります。
35	標題：中部横断自動車道について 北杜市道路河川課殿 パブリックコメント募集に基づき標記について、住民の立場から意見を述べさせていただきます。 先の国交省による平成23年頃の2回のアンケートにも回答してきましたが、早期の計画を決定し建設に着手するよう要望するものです。 長野県佐久市方面には、年に2〜3回ほど現在の国道141号線を使い出掛けていますが、野辺山から佐久市までの間が千曲川の河川沿いに狭い土地に通過しているため、危険を感じています。 また、渋滞の発生すると迂回路が少なく1時間半ほどで通過できるところが、2時間以上に掛ったこともシバシバありました。 中部横断道路が開通することは、山梨から長野県佐久方面に便利だけでなく、上信越自動車道路を利用して観光客が山梨方面に多くの人が利用することは、今まで国道141号線を利用して見て関東地域の車両ナンバーが、佐久方面から山梨に向かってきているのを見て大いに想定できます。 一部の方が、山梨県側だけ国道141号線を拡張してみても長野県側の国道141号線の道路の狭さや通過時間から利用車両がこれ以上増えるとは思えません。 国道141号線の問題点や救急医療への解決、災害時発生での対応にも山梨県側だけのメリット・デメリットで考えるのではなく、もっと広い地域での問題解決のために中部横断自動車道を活用すべきと考えます。 そのために、早期に計画を進めることを要望します。	頂いたご意見の中で、「山梨から長野県佐久方面に便利だけでなく」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P16地域活性化「基本方針：魅力あふれる元気なまちを目指して」に基づき、取り組んで参ります。 「国道141号線の問題点」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P15くらし「視点②：くらしやすさの向上」に基づき、取り組んで参ります。 「救急医療への解決」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P14くらし「視点①：安全・安心の確保に向けて」に基づき、取り組んで参ります。
36	中部横断自動車道の早期実現を要望する 八ヶ岳南麓地域は中央自動車道の開通により次のような影響(効果)があった。 ①首都圏から2時間、中部圏から3時間と交通の利便性が高まり、JR中央線との2つの大動脈により、人と物の迅速かつ安全な移動が可能となった。 ②高原リゾート地として注目され、関連施設も整備され、多くの観光客が訪れている。 ③交通の利便性から企業立地が図られ、地元の雇用の増大に繋がっている。 ④首都圏等から、永住者や別荘所有者等が訪れ、地域の人口増加となっている。 ⑤人が訪れることにより、商業(飲食・小売等)の数と売り上げの増加の発展に寄与している。 ⑥住宅需要等の拡大により、地元の不動産業者や土木建設業者等の仕事の増加。 中央自動車道が開通して約30年、この地域は軽井沢と比較する程の画期的な発展を遂げてきた。また、これからも一層の発展・活性化が住民の願いである。 今、少子高齢化の進捗がこの地域の重要な課題である。 その原因の一つは、都市部からの高齢者やその予備軍の転入等が多くを占めていると想定される。30%の高齢化率からも明らかである。このため10年後の医療費や介護保険等の負担が懸念される。 一方、地元の多くの若者が転出している状況がある。その原因は、地元若者の働く場が少ないことである。 中央自動車道開通後の30年余で企業立地が図られてきているが充分では無い。 このため、中部横断自動車道は、この地域にとっては中央自動車道に次ぐ第2の発展のチャンスである。 清里地域へのIC設置が想定されるが、現在の清里周辺は観光地としての、かつての繁栄の陰は無く衰退してきている。 傍観しては、入込客の増加は幻と消え、ストロー現象により他地域へ吸収され、清里地域の観光は壊滅的となることが想定される。このことは八ヶ岳南麓地域の観光の衰退に大きく拍車をかけることとなる。 このような状況を打破し、北杜市の一層の拡大発展のため、中部横断自動車道の早期開通を強く要望する。 中部横断自動車道活用検討委員会事務局 御中	頂いたご意見の中で、「一層の発展・活性化が住民の願い」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P16地域活性化「基本方針：魅力あふれる元気なまちを目指して」に基づき、取り組んで参ります。 「地元の多くの若者が転出している状況がある。その原因は、地元若者の働く場が少ないことである。中央自動車道開通後の30年余で企業立地が図られてきているが充分では無い」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P17地域活性化「視点②：商工業の活性化」に『若者の雇用につながる』という文言を追加します。 「清里地域へのIC設置が想定されるが、現在の清里周辺は観光地としての、かつての繁栄の陰は無く衰退してきている」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P18観光「基本方針：にぎわい創出玄関口づくり」に基づき、取り組んで参ります。 「傍観しては、入込客の増加は幻と消え、ストロー現象により他地域へ吸収され、清里地域の観光は壊滅的となることが想定される」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P18観光「基本方針：にぎわい創出玄関口づくり」に基づき、取り組んで参ります。 「北杜市の一層の拡大発展のため」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P16地域活性化「基本方針：魅力あふれる元気なまちを目指して」に基づき、取り組んで参ります。

「北杜市」からの文書（平成26年6月9日）

参考資料1 パブリックコメントで寄せられた意見一覧

対応案の赤字記載箇所は、ビジョン修正対応案

自022-39

No.	内容	対応案
37	標題：町づくり素案について(パブリックコメント) 中部横断道がつくられたら、八ヶ岳南麓はいわゆる通過型観光地になってしまう宿泊客は間違いなく激減すると思う。地元の観光業者は多くが廃業に追い込まれるのではと危惧している。 長坂から佐久へつなげる構想のようだが、その先には軽井沢という日本一の観光地が控えているのを忘れてはいけない。 清里近くにICを作るとも聞いているが、今の清里の状態で軽井沢に対抗できると本当に考えているのか。 大泉・高根も含めた南麓の地域経済は大打撃をうけると思う。中部横断自動車道はつくらずに、141号線の整備を進めたほうが地元の経済にとってはよほど有益だと思う。 高速道路ができれば人が集まるという30年前の考えに振り回されず、八ヶ岳南麓のすばらしい景観という、地域の宝を生かした、町づくりを考えるべきだと思う。 それこそ、市の進めている滞在型観光圏づくりへの近道ではないか。	頂いたご意見の主旨は『北杜市中部横断自動車道活用検討委員会』の所掌外のご意見です。 なお、頂いたご意見の中で、「中部横断道がつくられたら、八ヶ岳南麓はいわゆる通過型観光地になってしまう宿泊客は間違いなく激減すると思う。地元の観光業者は多くが廃業に追い込まれるのではと危惧している」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P18観光「基本方針：にぎわい創出玄関口づくり」に基づき、取り組んで参ります。 「141号線の整備」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P15くらし「視点②：くらしやすさの向上」に基づき、取り組んで参ります。 「八ヶ岳南麓のすばらしい景観という、地域の宝を生かした、町づくりを考えるべきだと思う。それこそ、市の進めている滞在型観光圏づくりへの近道ではないか」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P19観光「視点③：周遊・滞在(型)観光を促進する情報発信の工夫」に位置づけられています。
38	1. 工事に10年もかかり、その期間中の工事場周辺は、騒音とダンプの通行、ホコリで生活環境が悪くなる。南麓を通す高速道路反対・141号改修を 2. 高速道路の保守費用は、ずっと続く。今の北杜市や県は、いまの道路の保守も出来ない状態だ。合併特例の交付金も無くなるし。南麓を通す高速道路反対・141号改修を 3. 141号線改修が、環境の負担も少なく費用も安い。南麓を通す高速道路反対・141号改修を 4. 141号線を改修すると、沿線の店も活性化される。店も多くなる。南麓を通す高速道路反対・141号改修を 5. Bルート前提の活用検討委員会はおかしい。住民の意見でルートをきめるべき。南麓を通す高速道路反対・141号改修を 6. 高速道路によって生活の場と自然の場が分断される。この地への移住者は、自然の中での暮らしを求めてきた人で、これでは逃げ出す住民や、この地に移住しようとする人は来なくなるだろう。南麓を通す高速道路反対・141号改修を 7. 環境・景観にやさしく利便性のある道路を目指すなら、自然への影響が少ない、既にある141号線改修がよい。南麓を通す高速道路反対 8. 環境を大切にしながら、という視点が大事で、生活面も重要である。それに対応できるのは、141号線改修だけだ。南麓を通したら環境と生活の両方が駄目になる 9. 滑らかな豊富な水資源、特に名水百選に選定された湧水等の地下資源は、今貴重である。高速道路開発で、それらは絶対に失われる。高尾でも、滝が枯れることが無いと言われたが、実際には枯れた実績がある。壊れた自然は戻らない。南麓を通す高速道路反対・141号改修を 10. 救急医療圏を課題に挙げているが、元々、山梨県側は、甲府方面に搬送しているので、問題ない。山岳地域での救急搬送は、ドクターヘリか、救急病院を配置すべき。道路を造って解決する問題ではない。南麓を通す高速道路反対・141号改修を 11. 防災面でも141号線改修で、ミッシングリンクの解消条件である60km/hで走れる道路は一部バイパスなどの改修で可能。南麓を通す高速道路反対・141号改修を 12. 山岳景観を売り込んでいるので、景観を守って欲しい。南麓を通す高速道路反対・141号改修を	頂いたご意見の主旨は『北杜市中部横断自動車道活用検討委員会』の所掌外のご意見です。 なお、頂いた意見の中で、「141号改修」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P15くらし「視点②：くらしやすさの向上」に基づき、取り組んで参ります。 「工事場周辺は、騒音とダンプの通行、ホコリで生活環境が悪くなる」に関しては、まちづくりビジョンを策定した後、ビジョンを達成するための道路プラン策定の際の参考意見とさせていただきます。 「高速道路の保守費用は、ずっと続く」に関しては、まちづくりビジョンを策定した後、ビジョンを達成するための道路プラン策定の際、経済性にも配慮し、検討して参ります。 「高速道路によって生活の場と自然の場が分断される」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P13環境・景観「視点③：良好な生活環境への配慮」に基づき、取り組んで参ります。 「高速道路によって生活の場と自然の場が分断される」、「環境・景観にやさしく利便性のある道路を目指す」、「南麓を通したら環境と生活の両方が駄目になる」、「滑らかな豊富な水資源、特に名水百選に選定された湧水等の地下資源は、今貴重である」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P12環境・景観「視点①：豊かな自然環境との調和」、P13環境・景観「視点②：優れた山岳景観と農村景観の保全」、環境・景観「視点④：貴重な動植物との共存」に基づき、取り組んで参ります。 「山岳景観を売り込んでいるので、景観を守って欲しい」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P13環境・景観「視点②：優れた山岳景観と農村景観の保全」に基づき、取り組んで参ります。
39	命を救う。命を救ってもらうための「命の道」の建設を！ 大泉南部の一部の住民が反対をしていますが、ほんの僅かな新住民であり、既存の住民は皆無です。この反対運動なるものによって真の目的を見失ったり、少しでも躊躇が生じる事があってはならない。その事こそ「将来に禍根を残す」というものだ。	頂いたご意見の中で、「命を救ってもらうための「命の道」の建設を！」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P14くらし「視点①：安全・安心の確保に向けて」に基づき、取り組んで参ります。
40	・北関東方面への利便性に期待 ・八ヶ岳南麓にICが出来れば活性化にもなる	頂いたご意見の中で、「八ヶ岳南麓にICが出来れば活性化にもなる」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P18観光「視点①：観光拠点へのアクセス」に基づき、取り組んで参ります。
41	物流の大動脈として早期建設を望む。しかし、一方で過疎地域のメリットは少なく地域の分断、景観、騒音、光害、排ガス等々心配ばかり。これ等に対し丁寧な説明の機会を。	頂いたご意見の中で、「物流の大動脈」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P16地域活性化「基本方針：魅力あふれる元気なまちを目指して」に基づき、取り組んで参ります。 「地域の分断、景観、騒音、光害、排ガス等々心配ばかり」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P12環境・景観「基本方針：多様な自然・環境・景観とともに」に基づき、取り組んで参ります。

「北杜市」からの文書（平成26年6月9日）

参考資料1 パブリックコメントで寄せられた意見一覧

対応案の赤字記載箇所は、ビジョン修正対応案

自022-40

No.	内容	対応案
42	中部横断自動車道活用検討委員会御中 パブリックコメントとして意見を述べます。北杜市は市民から広く意見を聞くためコメントを募集しましたが、この募集自体に問題が存在します。それは北杜市民全体に対する公平性の問題です。 その理由として活用検討委員会のパブリックコメントは市のホームページで市民に知らせています。 パソコンを持っている裕福な市民しか知りえない事実ですし、持っていない市ホームページをくまなく見なければ知りえない。これは市民に対して平等、公平とは言えない行為だと思います。 本当に市民全体の意見が聞きたいのなら、新聞広告やチラシのポスティングなど市民全体の意見を聞くべき体制をとるべきです。 ましてや公務員が募集関係者に多くいる場合、地方公務員法により市民に対して公平性を求められています。 一部の意見だけを聞き締め切めることは法律に抵触すると思います。 又、市民からの内容証明文による行政への質問には真摯に答えるべきです。 この様な意見の聴取をしても第3回ワーキングの附帯事項はクリアできないと思います。	頂いたご意見の主旨は『北杜市中部横断自動車道活用検討委員会』の所掌外のご意見です。 北杜市中部横断自動車道活用検討委員会は、「まちづくりビジョン」を審議することから、地域の代表者や市域の主要産業である観光、商工業及び農業などの分野から委員を構成しています。多様な立場から意見を賜り、委員による合議制により審議を行うこととなっています。 また、「まちづくりビジョン」は、委員のみの意見にとどまることなく、地域の皆様を対象に複数回にわたる意見の把握を行い、それらの意見を踏まえながら策定していくこととなります。 さらに、検討委員会は、「北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱」に基づき公開で審議されているところであり、検討委員会の開催や審議結果などの情報は北杜市ホームページに掲載し、透明性を確保しながら審議を行っています。 こうしたことから、「北杜市民全体に対する公平性の問題」、「市民に対して平等、公平とは言えない行為」、「市民に対して公平性」という意見について、検討委員会の目的達成に当たっては、問題がないと認識しているところです。
43	◆中部横断自動車道の長坂ー小諸ルートに反対します。 ①道路はなるだけ多くの人が使えるような工夫が必要です。高速道路では通過車両ばかりが増え、道路の周辺には騒音、日照、景観など様々な被害を引き起こします。小諸へのルートは現行の国道147の整備で十分です。147が現行で不十分であるなら交通量に見合った道路に改造すべきです。北杜市はこの土地にとって高速道路が本当に必要かどうかをもっと具体的に調査すべきです。このままでは、旧住民と新住民・別荘住民との反発や不信感が広がるばかりで、ほんとに悲しい状態です。 ②新ルートの決定過程にも不満です。私が新ルート案を聞いたのは平成25年12月30日です。新ルートはこれまでのルートではない地域も入っています。その中に私の家はあります。事前に何の連絡もないまま突然当事者になってしまいました。旧ルートでは反対が多いので3キロ幅を1キロ幅に縮め、かつこれまで反対者のいなかった地域にルートを振ることで、反対運動を弱めようとしたのではないかと動線しています。”間討ちだ”というのが私の実感で、許し難い思いを持っています。これは北杜市の問題ではないかもしれませんが、こうした不信感を北杜市が引き受けなくてはならないのは不幸なことです。以上	頂いたご意見の主旨は『北杜市中部横断自動車道活用検討委員会』の所掌外のご意見です。 なお、頂いたご意見の中で、「高速道路では通過車両ばかりが増え、道路の周辺には騒音、日照、景観など様々な被害を引き起こします」に関しては、まちづくりビジョン（素案）P12環境・景観「基本方針：多様な自然・環境・景観とともに」、P13環境・景観「視点③：良好な生活環境への配慮」に基づき、取り組んで参ります。

「北杜市」からの文書（平成26年6月9日）

参考資料1 パブリックコメントで寄せられた意見一覧

対応案の赤字記載箇所は、ビジョン修正対応案

自022-41

No.	内容	対応案
44	北杜市役所建設部道路河川課ご担当者さま 中部横断道の活用について意見をお送りいたします。 私は東京の比較的郊外で生まれ育ちました。折々、年に数度、北杜市へ遊びに来ることはあり、やがて自分の子供を連れて移住しました。 子どもを育てるなかで、緑が多い、自然が多いという環境がよいと漠然と感じていました。きっと北杜市の皆様もそれは感じていらっしゃると思います。そして、高速道路が通っても北杜市には緑はたくさんある、多少生態系に影響を与えることがあったとしても、北杜市の一部分に高速道路が通るだけであり自然が多い環境には変わらないとお考えでしょう。 しかし、実際に日々暮らしてみても、分かった北杜市の魅力は、緑が多い、自然が多いという漠然としたものではありませんでした。経済を優先する都市の暮らしには、醜いものが多いのです。街並みを壊すような店舗や看板でも、目立てばよい、宣伝になればよい、という経済論理がまかりとおっています。 そして人間の本能はそれには耐えられないため、都市住民は、自分の感覚を鈍くさせることで適応していますが、それは精神的には負担であり、ぎすぎすした社会形成の一因ともなっています。ハケ岳の魅力のひとつに「癒し」が挙げられる根底には、心を固く閉じなくても傷つけられない、醜いものが見え入らない、無理に目を背ける努力をしなくてよい、ということがあるのだと思います。 自然環境が素晴らしいと観光客も移住者も行政も、つい言うてしまいます。それは、得てして、山や動植物などもともとある自然に言及してしまいがちですが、それだけでなく、醜いものを恐れずに安心して心を緩めて緑を堪能できるという環境も大事なのだと思います。ただ緑がある、自然に触れ合える、というだけでは人は癒さるのではない。心を緩めても、傷つけられない保証が必要だ、ということを知っていただきたいと思います。 清里の駅前の荒廃した景色は、ファンシーという当時の流行をそのまま採り入れたこと、経済論理を優先したことへの警鐘です。 条例によって店舗や建物、看板などの大きさや色(色数・色調)などに関する規制が必要かもしれません。現在の景観保全の条例で十分なのかどうかを改めて見直したいです。それは、高速道路においても同様です。景色を味わうときに、たとえ自分が数時間前に走ってきた高速道路でさえも、目に入れば邪魔に思えるものです。観光客のエゴに配慮する義務はありませんが、リピーターや移住者の獲得を望むのであれば考慮すべきでしょう。そして同時に観光客や移住者を育てる視点も必要です。たとえば自然も豊かでコンビニエンスストアもたくさんある、というのは暮らしやすい町だと錯覚しがちですが、自分達が求めている「癒し」はそれでは得られないのだと気づけるように。 交通の便はよいのに醜いものが少ない、という絶妙なところに北杜市はあり、そのバランスを崩さないように慎重をお願いします。韮崎や諏訪へ走れば郊外型大型店舗が増えつつあるのを感じます。北杜がそうならしまったら、もう取り返しがつかなくなります。単なる、他より緑の多い郊外、になってしまいます。 ただでさえ高速道路を作ること未来の大人=子ども達にさらなる負債を押しつけるのですから、豊かな自然環境と美しい景観をなるべく残すことに努めるのが、最低限の義務だと思います。	頂いたご意見の中で、「緑が多い、自然が多いという環境がよいと漠然と感じていました」「豊かな自然環境と美しい景観をなるべく残すことに努める」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P12、13「環境・景観」に基づき、取り組んで参ります。 「ハケ岳の魅力のひとつに『癒し』が挙げられる」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P18「観光」基本方針「にぎわい創出玄関口づくり」に、『癒し』という文言を追記します。 「醜いものを恐れずに安心して心を緩めて緑を堪能できるという環境も大事なのだと思います」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P12「環境・景観」基本方針「多様な自然・環境・景観とともに」に基づき、取り組んで参ります。 「条例によって店舗や建物、看板などの大きさや色(色数・色調)などに関する規制が必要かもしれません」に関しては、上位関連施策等と整合を図りながら(各種団体の取組とも調整を図りながら)進めて参ります。 「景色を味わうときに、たとえ自分が数時間前に走ってきた高速道路でさえも、目に入れば邪魔に思えるものです」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P12「環境・景観」視点①:「豊かな自然環境との調和」に基づき、取り組んで参ります。 「交通の便はよいのに醜いものが少ない、という絶妙なところに北杜市はあり、そのバランスを崩さないように慎重をお願いします」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P12「環境・景観」視点①:「豊かな自然環境との調和」、まちづくりビジョン(素案)P18「観光」基本方針「にぎわい創出玄関口づくり」に基づき、取り組んで参ります。 「高速道路を作ること未来の大人=子ども達にさらなる負債を押しつける」に関しては、まちづくりビジョンを策定した後、ビジョンを達成するための道路プラン策定の際、経済性にも配慮し、検討して参ります。
45	北杜市役所建設部道路河川課ご担当者さま 中部横断道の活用について意見をお送りいたします。 清里なり北杜市内にICを作れば、市にとってメリットがあるとお考えようですが、逆に、市内には新たにICを作らないことをご提案します。 現在、清里へ足を運ぼうと思った観光客は、須玉ICか長坂ICから一般道を走ってアクセスします。 あるいは、小淵沢方面や明野方面に滞在しているのであれば、同じように一般道を走ってアクセスします。その間に、田園風景を眺め、林や森を抜け、ハケ岳を仰ぎみす。その道程を楽しむことが、旅の醍醐味でもあります。 清里にICができてしまったらどうでしょうか。アクセスが便利になることで、一時は観光客も増えるでしょうが、ポイントとして清里が栄えたとしても、エリアとしての魅力はなくなってしまいます。 ハケ岳山麓の飲食店を見ていると、街道沿いのお店の方が、アクセスしやすく、はやりそうなのですが、意外と車が停まっていることが少なく、ちょっと小道を入っていったところにあるお店でもおいしいものを出しているお店は栄えている。 これだけ魅力の多い北杜市ですから、市内に新たにICを作らない、道路は必要だから通したとしても、清里へ行こうと思えばやっぱり従来のICで下りなければならぬ。ICを作るのは市だと聞きました。そこへ割くお金で、清里に侵入を促し、エリアとしての魅力をアップすることの方が有効だと思います。	頂いたご意見の中で、「市内には新たにICを作らないことをご提案します」、「小淵沢方面や明野方面に滞在しているのであれば、同じように一般道を走ってアクセスします。その間に、田園風景を眺め、林や森を抜け、ハケ岳を仰ぎみす」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P18「観光」基本方針「にぎわい創出玄関口づくり」に基づき取り組んで参るとともに、具体的な取組については、まちづくりビジョン策定後の、まちづくりビジョンを達成するための道路プランで検討して参ります。 また、「清里にICができてしまったらどうでしょうか。アクセスが便利になることで、一時は観光客も増えるでしょうが、ポイントとして清里が栄えたとしても、エリアとしての魅力はなくなってしまいます」、「エリアとしての魅力をアップすることの方が有効」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P18「観光」基本方針「にぎわい創出玄関口づくり」、P19「観光」視点③:「周遊・滞在(型)観光を促進する情報発信の工夫」に基づき、取り組んで参ります。 さらに、上位関連施策等と整合を図りながら(各種団体の取組とも調整を図りながら)進めて参ります。 「ハケ岳山麓の飲食店を見ていると、街道沿いのお店の方が、アクセスしやすく、はやりそうなのですが、意外と車が停まっていることが少なく、ちょっと小道を入っていったところにあるお店でもおいしいものを出しているお店は栄えている」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P16「地域活性化」基本方針「魅力あふれる元気なまちを目指して」に基づき、取り組んで参ります。

「北杜市」からの文書（平成26年6月9日）

参考資料1 パブリックコメントで寄せられた意見一覧

対応案の赤字記載箇所は、ビジョン修正対応案

自022-42

No.	内容	対応案
46	私は、豊かな自然、貴重な動植物、そしてこのハケ岳の雄大な景観を台無しにする中部横断自動車道の建設に反対です。 この地域は首都圏から移り住んでく人が多い場所です。その理由は、北杜市でもうたっているようにこの自然環境が人を魅了するからだと思います。実際、このハケ岳南麓には、自然を求め多くの観光客が、オーガニックな野菜や、ハイキングや、ツーリング、ロードレースなど、さまざまな自然を求めて来ています。この自然は大切な観光資源です。このハケ岳南麓だからこその自然をテーマにしたイベントも行われています。そんな、自慢できる観光資源を自ら壊す高速道路は、このハケ岳南麓には必要ありません。 全国各地の観光地で、高速道路や新幹線などの建設でかえって観光地として機能しなくなった町が多くあります。要するに、中部横断道ができれば北杜市は通過されるだけで没落してしまうという声もとても多い。私もここで自営業をしていますが仕事がなくなる可能性があり、死活問題です。ここで、観光客を対象に経営をしているレストランやパン屋さんなど大きな打撃を受けることは必至です。 北杜市にはすでに須玉インター、長坂インター、小淵沢インターと3つもインターチェンジがあります。観光で訪れるみなさんはそれぞれの目的のインターを選んで降りています。別荘やホテルまで買い物したり、食事をしたり、その行程が楽しいのではないのでしょうか。これ以上何が必要だと言うのでしょうか、私は現時点で十分なインフラが整っていると思っています。 今、ここに中部横断道を作ることはこの世界の流れと逆行していると言わざるを得ません。インフラを整備するよりも、もっと魅力的な自然を作る努力をしてはどうでしょうか。森林整備や農業の制限、荒れた登山道の整備、貴重な動植物の保護など、積極的に自然をアピールして高速道路に頼らない試みをするべきだと思います。 ミッシングリンクの解消は新設道路を使う必要はないと国土交通省自らが言っています。141号を改良し自然を徹底的に壊さない北杜市になるべきだと思います。それこそが北杜市のイメージだと、私は考えます。	頂いたご意見の主旨は『北杜市中部横断自動車道活用検討委員会』の所掌外のご意見です。 なお、頂いたご意見の中で「自然環境が人を魅了する」「このハケ岳南麓には、自然を求め多くの観光客が、オーガニックな野菜や、ハイキングや、ツーリング、ロードレースなど、さまざまな自然を求めて来ています。この自然は大切な観光資源」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P18観光「基本方針:にぎわい創出玄関口づくり」に位置づけられています。 「中部横断道ができれば北杜市は通過されるだけで没落してしまう」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P16地域活性化「基本方針:魅力あふれる元気なまちを目指して」、P18観光「基本方針:にぎわい創出玄関口づくり」に基づき、取り組んで参ります。 「自営業をしています仕事がなくなる可能性があり、死活問題です。ここで、観光客を対象に経営をしているレストランやパン屋さんなど大きな打撃を受けることは必至です」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P16地域活性化「基本方針:魅力あふれる元気なまちを目指して」に基づき、取り組んで参ります。 「森林整備や農業の制限、荒れた登山道の整備」に関しては、まちづくりビジョンを策定した後、ビジョンを達成するための道路プラン策定の際の参考意見とさせて頂きます。また、上位関連施策等と整合を図りながら(各種団体の取組とも調整を図りながら)進めて参ります。 「貴重な動植物の保護など、積極的に自然をアピール」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P13環境・景観「視点④:貴重な動植物との共存」に基づき、取り組んで参ります。 「141号を改良し」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P15くらし「視点②:くらしやすさの向上」に基づき、取り組んで参ります。
47	わたしがここに居を構えて10年になります。もともと山が好きで老後は山でという思いからここに越してきました。今ではこちらで友達もでき、楽しい毎日を送っています。中部横断道ができる、それも我が家の真上が計画ルートに入っているのを聞き、今は家族で反対の声明を出しています。なぜ、このような風光明媚な場所に高速道路が必要なのでしょう。わたしだけでなく、中部横断道で困る人が多く出て、地域の亀裂が走るこの北杜市で将来を過ごす人々のことを考えているのでしょうか？ 私は中部横断道建設には絶対反対です。そして市で行われている活用検討委員会にも反対しています。もっと住民の声を聞くべきです。	頂いたご意見の主旨は『北杜市中部横断自動車道活用検討委員会』の所掌外のご意見です。 なお、頂いたご意見の中で、「風光明媚な場所」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P13環境・景観「視点②:優れた山岳景観と農村景観の保全」、環境・景観「視点③:良好な生活環境への配慮」に基づき、取り組んで参ります。
48	意見 市政を運営する皆さま、北杜市と住民のために日夜ご努力いただきありがとうございます。 中部横断自動車道の北杜市管内の建設については、昨年の国土交通省による説明会などで市民の意見集約を見てもわかる通り、国道141号改修案の意見がもっとも多く、高速道路建設を推進する北杜市と、有用な自然住環境をもとめて反対する多数の市民との妥協案として、「もっとも良い」方法だと思います。 現在、ルートとしては「B案」が浮上していますが、国土交通省が正式に決定したわけではありません。このように「建設の賛否、ルートの選定について市民の意向が交錯する大問題」ですので、このような意見の募集は不意な市民、市政への不審、対立を生むだけですので、時期尚早だと思います。 この意見の募集は「正式なルート決定後」に行っても良いのではと思います。 以上	頂いたご意見の主旨は『北杜市中部横断自動車道活用検討委員会』の所掌外のご意見です。 なお、頂いたご意見の中で「国道141号改修案」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P15くらし「視点②:くらしやすさの向上」に基づき、取り組んで参ります。

「北杜市」からの文書（平成26年6月9日）

参考資料1 パブリックコメントで寄せられた意見一覧

対応案の赤字記載箇所は、ビジョン修正対応案

自022-43

No.	内容	対応案
49	中部横断自動車道を前提としたまちづくりは、北杜市の未来をなくすものです。今検討すべき事は、北杜市にとって高速道路が有益か、それとも国道141号の整備改善が有益かを検討すべきではないでしょうか。 素案の「豊かな自然環境との調和」「優れた山岳景観と農村景観の保全」「良好な生活環境」「貴重な動植物との共存」のまち作りは素晴らしい。でも、高速道路の建設は、これらをすべて悪化させるだけで、なんらメリットはもたらしません。 ・国道141号の整備改善が、全ての面でメリットがあり、有益です。 ・ハケ岳南麓(須玉川、川俣川の西側地域、及び津金)に高速道路の建設は反対です。 国道141号の整備改善なら、これらは、全て可能です。さらに、世界一流のハケ岳南麓からの眺望景観も保全されます。高速道路ではなく、景観と環境を優先して国道の整備を選べば、日本全国だけでなく世界でも注目され、多くの人々が訪れ、北杜市は今後発展していくことになります。 高速道路は、北杜市にとって最も重要な景観を破壊します。雄大で美しい眺望景観こそ北杜市が守らなければならないもの。この世界一の景観が、多くの人々、観光客を呼び込み、観光業、不動産業、リゾート関連産業、建設業、運送業、農業、小売業など地域経済は、既に多くの恩恵を受けて来ています。 美しい山並みの眺望は、手前の田園風景が美しいから、美しいのです。高速道路は、その手前の田園風景を壊すもので、山並み景観を台無しにします。高速道路は、騒音や振動、光害などをまき散らします。この静寂な地域での影響は想像を超える悪化です。国道141号を整備改善なら、景観や自然が守られ、騒音や振動、光害の心配はありません。静寂さ星空が確保され、平穏な生活権も脅かされることはありません。また、生活道路である国道141号の安全性、速達性が高まることは、北杜市民だけでなく、観光客、長野県の住民にとっても大変ありがたく、便利さが増します。 国道141号の改善整備なら、景観、自然が守られるため、人々が集まり、北杜市は発展します。全てにおいて、国道141号の改善整備の方が勝り、将来においても、北杜市のまち作りにメリットをもたらします。反対に、高速道路の建設は、全ての面においてマイナスで北杜市の発展には貢献せず、将来に負の遺産を残すことになります。高速道路は、北杜市には不要です。	頂いたご意見の主旨は『北杜市中部横断自動車道活用検討委員会』の所掌外のご意見です。 なお、頂いたご意見の中で「国道141号の整備改善」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P15くらし「視点②:くらしやすさの向上」に基づき、取り組んで参ります。 「世界一流のハケ岳南麓からの眺望景観も保全されます」、「雄大で美しい眺望景観」、「美しい山並みの眺望は、手前の田園風景が美しいから、美しいのです。高速道路は、その手前の田園風景を壊すもので、山並み景観を台無しにします」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P13「視点②:優れた山岳景観と農村景観の保全」に基づき、取り組んで参ります。 「この世界一の景観が、多くの人々、観光客を呼び込み、観光業、不動産業、リゾート関連産業、建設業、運送業、農業、小売業など地域経済は、既に多くの恩恵を受けて来ています」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P16地域活性化「基本方針:魅力あふれる元気なまちを目指して」に基づき、取り組んで参ります。 「高速道路は、騒音や振動、光害などをまき散らします」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P13環境・景観「視点③:良好な生活環境への配慮」に基づき、取り組んで参ります。
50	高速道路を作れば、地域が活性化すると信じたのは、もう昔物語です。交通の便がよくなって地域経済が活性化したところは、全国どこにもありません。過疎化を招くのが現実です。地域間の競争が激しくなった今では、どこも良い景観を作り、道は細くて車をゆっくり走らせる時代に入っています。それなのに、いまだにまちづくりをまち作りの柱にするようなビジョンは、時代錯誤で、残念としか言いようがありません。高速道路を作れば人々が集まる、地域が活性化するという幻想から覚めてください。 中部横断自動車道をハケ岳南麓に作れば、確実に通過型観光になり、観光業は痛手を受けます。北杜市で最も重要で価値ある景観を破壊し、騒音、光害、振動による環境に悪化で、リゾート地としての魅力はなくなります。移住者も別荘も減り、不動産業、建設業も、そして小売業者、農業と地域経済が大打撃を受けるのは明らかです。 中部横断自動車道ではなく、国道141号を整備改善するほうが地元の経済にとってはよほど有益です。そして、景観と自然を生かしたまち作りを考えれば、市が進める滞在型観光圏にてできると思います。	頂いたご意見の主旨は『北杜市中部横断自動車道活用検討委員会』の所掌外のご意見です。 なお、頂いたご意見の中で、「中部横断自動車道をハケ岳南麓に作れば、確実に通過型観光になり、観光業は痛手を受けます。北杜市で最も重要で価値ある景観を破壊し、騒音、光害、振動による環境に悪化で、リゾート地としての魅力はなくなります」、「不動産業、建設業も、そして小売業者、農業と地域経済が大打撃を受けるのは明らかです」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P13環境・景観「視点③:良好な生活環境への配慮」、P16地域活性化「基本方針:魅力あふれる元気なまちを目指して」、P18観光「基本方針:にぎわい創出玄関口づくり」に基づき、取り組んで参ります。 「国道141号の整備改善」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P15くらし「視点②:くらしやすさの向上」に基づき、取り組んで参ります。 「景観と自然を生かしたまち作りを考えれば、市が進める滞在型観光圏」に関しては、まちづくりビジョン(素案)P18観光「基本方針:にぎわい創出玄関口づくり」に基づき、取り組んで参ります。